

44
43

大 正
五 年 度
愛 知 縣 水 產 試 驗 場 事 業 報 告



始



14₂-45

五年度正 愛知縣水産試験場事業報告

漁撈部 目次

漁撈部	第一區海面ニ於ケル探檢調査	一頁
	秋刀魚流網試験	二頁
	鱈漁場探檢	四頁
	鯉釣漁業試験	六頁
	試験ノ方法	七頁
	鯉釣試験出漁日誌	七頁
	試験ノ經過及成績	九頁
製造部	漁撈科傳習生養成	一五頁
	「アンチヨビ」鹽藏鯉製造試験	一六頁
	原料	一六頁
	製造方法	一七頁

大正 7. 1. 15 内交

目二

製 品	一八頁
「アンチヨビ」品評報告	一九頁
鮎利用試験	二〇頁
鮎時雨養	二〇頁
原 料	二〇頁
製 造 方 法	二二頁
製 品	二二頁
輸出向蝦罐詰製造試験	二三頁
原 料	二四頁
製 造 方 法	二四頁
製 品	二五頁
蝦罐詰試賣成績	二五頁
試賣成績ニ基ク意見	二七頁
蛭節製造試験	二九頁
製造雜試験	二九頁
鮫油製造試験	二九頁
原 料	二九頁
製 造 方 法	三〇頁

製品試賣成績	三〇頁
王余魚罐詰製造試験	三二頁
原 料	三二頁
製 造 方 法	三二頁
製 品	三三頁
製造科傳習生養成	三四頁

養 殖 部

養魚池ノ修繕工事及ビ模様變	三五頁
包圍堤(外廓堤)修繕工事ノ梗概	三五頁
漏水留及區劃堤工事ノ梗概	三九頁
經 濟 試 験	四八頁
國庫補助試験	五〇頁
黒鯛養成試験	五〇頁
養水濃度ノ變化ガ鹹水魚ニ及ボス影響ニ關スル研究ノ梗概	五三頁
穴 子	五三頁
石 鰈	五五頁
養殖委託試験	五六頁

給養殖委託試験 五六頁

板市牡蠣養殖委託試験 五七頁

養殖科傳習生養成 五八頁

調 査 部

打瀬網漁業調査 五九頁

漁業基本調査 五九頁

伊勢海漁業基本調査表 五九頁

講習講話並ニ實地指導 七三頁

講習講話 七三頁

朝鮮海ニ於ケル縣下出漁者ノ狀況

本籍地郡市別表(大正六年三月調査) 七四頁

本籍地町村別表 七四頁

根據地別表 七四頁

大正五年度漁獲高表 七六頁

漁 撈 部

技 手 水 野 均 治

本年度ハ前年度ニ繼續シ漁場探検并ニ鯉釣漁業試験ヲ施行セリ

漁 場 探 検



本年度ハ前年度ノ計畫ニ基キ縣下外海遠州灘ニ於ケル深海漁場ノ調査及未發新漁場ノ探検ヲ左ノ方法ヲ以テ從事シタ

既定海面第二區ニ於ケル探検調査

一、秋刀魚流網試験并ニ全漁場探検

今左ノ各項ニ於ケル事業ノ經過並ニ成績ニ就テ其ノ梗概ヲ記サン

一、第二區海面ニ於ケル探検調査

本年度探検調査ハ前年度既定海面第一區海面調査ヲ完了セルヲ以テ第二區海面(別圖參照)ノ探査ニ從事シタルモノ

ニシテ漁具ハ主トシテ「ビームトロール」ヲ用ヒタリ而シテ本年度ハ天候ノ都合ト他事業施行ノ關係上充分之レガ調

査ノ回数ヲ重ヌル能ハズシテ大正五年十月ヨリ大正六年二月ニ至ル期間中僅カニ五回操業ニ從事シ得タルニ過ギザル

ヲ以テ充分知悉シ能ハザリシモ第二區西半部及北半部ノ大略ハ左ノ如シ

第二區西部ハ海深北端ニ於テハ六十尋内外ナルガ南方ニ向フニ從ヒ深度漸次増大シ南端部ニ於テハ百二十尋ヲ算シ益

々深カ、ラントスルガ如シ底質北部ハ細砂質ナルモ南方ニ向フニ從ヒ泥土ヲ交エ南部ハ軟泥深シ又海流ハ第一區ニ於

ケル夫レト大差ナク春夏ノ候ニ於テハ東北東ニ向フモノ夥シク秋冬期ハ之ト相反スル西南西流著シテ其他時々天候風向ノ模様ニヨリテ一定セザルモノアレドモ中ニモ南方ニ向フモノ急激ナリ棲息魚族ハ北部「めいたかれい」金頭魚魴鱒ノ仔魚等夥シク饒産シ其他「はんごかれい」等ノ類多シ而シテ南方深海ニ向フニ從ヒ「ゆめかさご」「紅蝦」長大ナル白濁色ノ海鼠多産スレドモ漁撈上ノ價值少ナシ又本區北半部ニ於テ東方ニ至ルニ從ヒ深度急激ニ増加セズ水深五六十尋ニシテ比較的海底平坦ニシテ底質ハ細砂及砂泥質ナルヲ以テ打網漁場トシテハ適良場所ナルモ棲息魚種價值アルモノ少ナク「めいたがれい」「金頭魚」ノ仔魚ヲ始メトシテ「がんぎさい」「あんど」「ごろふぐ」等ノ如キモノニシテ特ニ曳網ノ目的トスベキ所ニアラズ然レドモ嚴寒ノ候海底魚族ノ淺海部ヨリ深海部ニ移動セル好時機ニ於テ操業センニハ「たい」「ひらめ」「かれい類」「かわはぎだい」「いか」等ノ好漁スル事アラント信ズ而シテ本區中央ヨリ以南部ニ於テハ小岩礁點在セルヲ以テ曳網操業ニ支障ヲ生スルモノアルヲ以テ注意スベキナリ(別圖參照)

秋刀魚流網試驗

一、趣旨

秋刀魚ハ大洋沿岸ニハ秋冬期三四月間群集來遊シ秋冬漁業ニ頗ル活況ヲ呈シ其ノ隆盛地ハ千葉縣ヲ第一位トシテ茨城三重靜岡和歌山福島德島高知ト順次相次ギ大洋沿岸北ハ北海道青森ヨリ南ハ鹿兒島ニ至ル沿海之ガ漁獲セラハザル處ナシ又日本海方面ニ於テモ秋田新潟富山石川山口等之ガ多少ノ産額ヲ有ス然ルニ獨リ本縣ハ太平洋沿岸ニ位シ然モ隆盛地タル靜岡三重ノ中間ニ介在シテ其産額絶無ナルハ寧ろ奇異ナル現象ト謂フベキナリ由來本縣ハ南太平洋ニ面シ海岸線八十有里ヲ有スレドモ其大部ハ伊勢海三河灣ニ屈曲シ從テ漁業ノ如キモ内灣漁業ニノミ局限シ更ニ遠洋的漁業ニ勇進スルモノナキ状態ニシテ隨テ該漁業ノ如キモ全ク等閑ニ附セラレタルモノナリ
今秋刀魚ノ太平洋岸ニ洄游スル状態ヲ視ルニ最初十月頃東北(三陸地方)沿岸ニ其群影ヲ表ハシ季節ト潮流ニ從ヒ漸

次南下シ來リ十一月ヨリ十二月ニ於テ總房海紀州海ニ於テ盛漁ヲ呈スルモノナリ

爰ニ遠州海ト秋刀魚トノ關係ヲ考察スルニ遠州海沿岸ハ數十哩ノ砂濱ニ連リ海深遠淺ニシテ百尋線ニ達スルニハ陸岸ヨリ二十有里出デザルベカラズ而シテ沿岸河川湖ニ富ミ淡水ノ灌溉夥シク遠洋的魚族タル鯉、鮪、秋刀魚等ノ如キハ比較的近岸ニ接近セザルガ如キ傾向ナキニ非ラザレバ其海面總房海紀州海トノ中間ニ位シ秋刀魚ノ魚群南下シ來ル魚道ニシテ又沖合ニ於ケル海洋状態ハ紀州海總房海ト何等秋刀魚洄游ニ異變アルナク多少漁場ノ他海ニ比シ遠隔セルニ過ギザルモノナリ然リト雖モ本漁業ノ如キ遠洋的漁業ニ於テハ漁場ノ遠近ノ如キハ今日考慮スベキ問題ニアラズシテ大ニ進展進取スベキヤ論ヲ俟タザル所ニシテ當遠州海ニ於テモ秋刀魚漁場トシテ看過スベカラザル海面ナリ爰ニ於テ本場ハ斯業開發ヲ目的トシテ現今秋刀魚漁獲ニ最モ卓越セル流網ヲ使用シ以テ本縣秋冬期遠洋漁業ノ開發ヲ計リ一面將來必然的進展スベキ發動機付遠洋漁業ノ經營ニ資シ以テ縣下漁民ノ誘掖指導ニ從事セントテ之ガ事業ヲ開始セリ

一、漁具

本年度調製ノ漁具ハ遠州海紀州海ニ例年來遊セル秋刀魚ノ体長体高体幅及ビ其ノ習性ニ鑑ミ且ツ又經費ノ關係上出來上リ一反三十尋ノモノ七反ヲ新調シタルモノナリ其構造次ノ如シ

秋刀魚流網ノ構造

- 網地 綿糸六本合糸九分目蛙股編百掛五十尋切二枚ヲ横縫トシテ一反トス
- 浮子 桐製長六寸巾一寸五分厚七分三厘一個ノ重量十匁ノモノ一尋ニ三枚宛一反ニ付九拾枚
- 浮子網 徑二分ノ南京麻二子撚長サ一反ニ付キ三十一尋ノモノ二本
- 浮子結付糸 綿糸三十本合糸一反ニ付長三十五尋一本
- 沈子 陶器製一箇ノ重量四匁ノモノヲ二尋ニ五個宛トシ一反ニ付キ七十五個

沈子網 徑二分ノ南京麻二子撚長サ一反ニ付キ三十五尋ノモノ一本ニ綿糸七十五本合糸一本ヲ添網トス

沈子結付糸 綿糸三十本合糸一反ニ付キ長サ四十尋ノモノ一本ヲ以テス

縮結 浮子方ハ四割 即チ五十尋ノモノヲ三十尋トシ

沈子方ハ三割ニシテ五十尋ノモノヲ三十五尋トセリ

以上出來上リノ網全部カッチ染トシテ七反調製シタリ

一、經過及成績

本年度遠州海紀沖海ニ來游スル秋刀魚ハ黑潮ニ影響セラレテ稀有ノ悲境ニ了リ當方面ニ於ケル秋刀魚漁業ハ甚大ナル打擊ヲ蒙レリ本試驗ニ於テモ數回出漁中魚群ニ會シタルハ僅カニ二回ニシテ豫想外ノ不結果ニ了レリ斯クテ十二月一日ノ出漁ニハ魚群ヲ認タルハ二回ニシテ第一回ハ天候潮流ノ爲メニ遠州海ヨリ伊豆海ニ壓流セラレ下田港沖ニ於テ操業セル時ニシテ此際ハ最初ノ漁具使用ナルヲ以テ漁夫ノ不熟練ナルニ附近海洋狀態不明ナリシト然モ非常ナル急潮ニ會ヒ本船ト「ボート」ト遠ク離間シタル危險ニ遭遇シ充分操業スル能ハザリキ第二回ハ十二月三十一日夜大王崎東五六哩ノ地点ニ於テ魚群ニ會シ直チニ操業シタリシニ漁船漁具ノ操縱相當優良ニ使用シタリシガ罹魚極メテ少ク豫期ノ目的ヲ達シ得ザリキ蓋シ魚体ノ大サト網目トノ適合ヲ得ザリシ爲メニシテ魚群ノ饒多ナルニ係ラズ一回ノ操業ニ漁獲八十尾ニ過ギザリキ爾後天候不良トナリ乍遺憾中止ノ已ムナキニ至レリ、本年度ハ新ノ如キ例年稀有ノ不況ナリシト漁夫ノ習熟セザルト網目ノ相違等ニヨリテ豫期ノ成績ヲ得ザリシモ將來ニ開發スベキ漁業タルヲ認ムルヲ以テ來年度ニ於テハ本年ノ失敗ニ鑑ミ漁具漁法ヲ改善シ以テ本試驗ノ目的貫徹ヲ計ラントス

一、鮭漁場探檢

一、趣旨

本縣外海遠州海沖合ハ打瀬網漁業ニ又各種釣漁業ニ優越セル漁場ト謂フベシ而シテ打瀬網漁業ノ現今ニ於ケル進歩發達ハ今更緊説ヲ要セザル所ナルガ遠洋的釣漁業ニ至リテハ天然ノ遺利ヲ放棄セラレタルモノ少ナカラズ渥美半島巨岸二十哩内外ノ地点海深百三四十尋ヨリ二百五十尋内外ニ於ケル海面ニ於テハ岩礁散在シ深海性魚族鮭沖鯨沖鯨等ノ底魚鱈産棲息セリ而シテ之ガ漁撈ハ古クヨリ志州遠州ノ漁業者ニ獨占セラレ縣下漁業者ニシテ爰ニ着眼スルモノナカリシニ十數年前篠島ノ漁業者之ヲ他所ヨリ見習ヒテ創業セルモノアリテ一進一退ノ狀態ヲ以テ本漁業ヲ繼續シ來レリ然レドモ之ハ元來他人ノ模擬漁法ニシテ漁場ノ探檢等ニ努ムル事ナク局部漁場ニノミ操業ヲ續ケタルヲ以テ近年漁場荒廢シ漁獲頓ニ減少シ衰退セントセリ然レドモ本漁業ノ如キハ一局部ニ局限セラレベキモノニアラズシテ海底潮流ノ關係ヲ調査シ新漁場ヲ探索シ以テ大ニ發展ヲ嚆望スベキ漁業タルヲ以テ本場ハ本年度ヨリ本漁場ノ探檢ヲ計畫シ斯業ノ開發ニ努メ當業者ヲ率先誘導セント欲スルモノナリ

一、漁具

鮭漁場探檢具トシテハ鮭一本釣具鮭延繩具其他底刺網等各種アレドモ其ノ適具ハ延繩具ニ及ブモノアラザレバ本年度ハ鮭延繩具二十四鉢ヲ調製シ之ガ事業ニ從事セリ漁具ノ構造ハ次ノ如シ

鮭延繩ノ構造

幹 繩 南京麻二子撚徑二分乃至二分五厘ニシテ一鉢ノ總長八十一尋技系ハ三尋間ニ一本宛一鉢ニ二十五本付トス

技 糸 青金引麻二子撚徑二厘長サ一尋一尺五寸ニシテ其ノ端ニ釣鈎ヲ結付シ一鉢ニ二十五本付トス

浮子網 南京麻二子撚徑二分五厘ニシテ二百五十尋三百尋三百五十尋ノ三本ヲ使用セリ

浮子標 四斗樽二個一斗樽一個合計三個各ボンデ竹ヲ結付セリ

沈子 木製一本爪ノ碗ニ一貫五百目内外ノ長方形ノ石ヲ結着シ各浮子網ノ端ニ一個宛三挺ヲ用ユ

釣 鈎 鐵製錫鍍金ノモノニテ寸五寸六寸ノ三部ニ分ケ使用セリ
一、經過及成績

本探檢ハ大正六年二月ヨリ施行スベキ豫定ナリシガ諸準備其他ノ都合上三月ヨリ出漁シ三月上旬中四回ノ探檢操業ヲ得タリキ

第一回ハ渥美半島大山南々東十七湮附近ニ延繩シタルニ附近海底岩礁點在シ繩羅確シ二十四鉢全部引上ニ六時間半ヲ要シ多大ノ困難ニ遭遇セリ然レドモ鯨ハ海底岩礁散在シ且ツ海底ノ狀態淺所ヨリ深所ニ至ル急勾配ノ中間附近最も多ク棲息セルヲ探知セリ

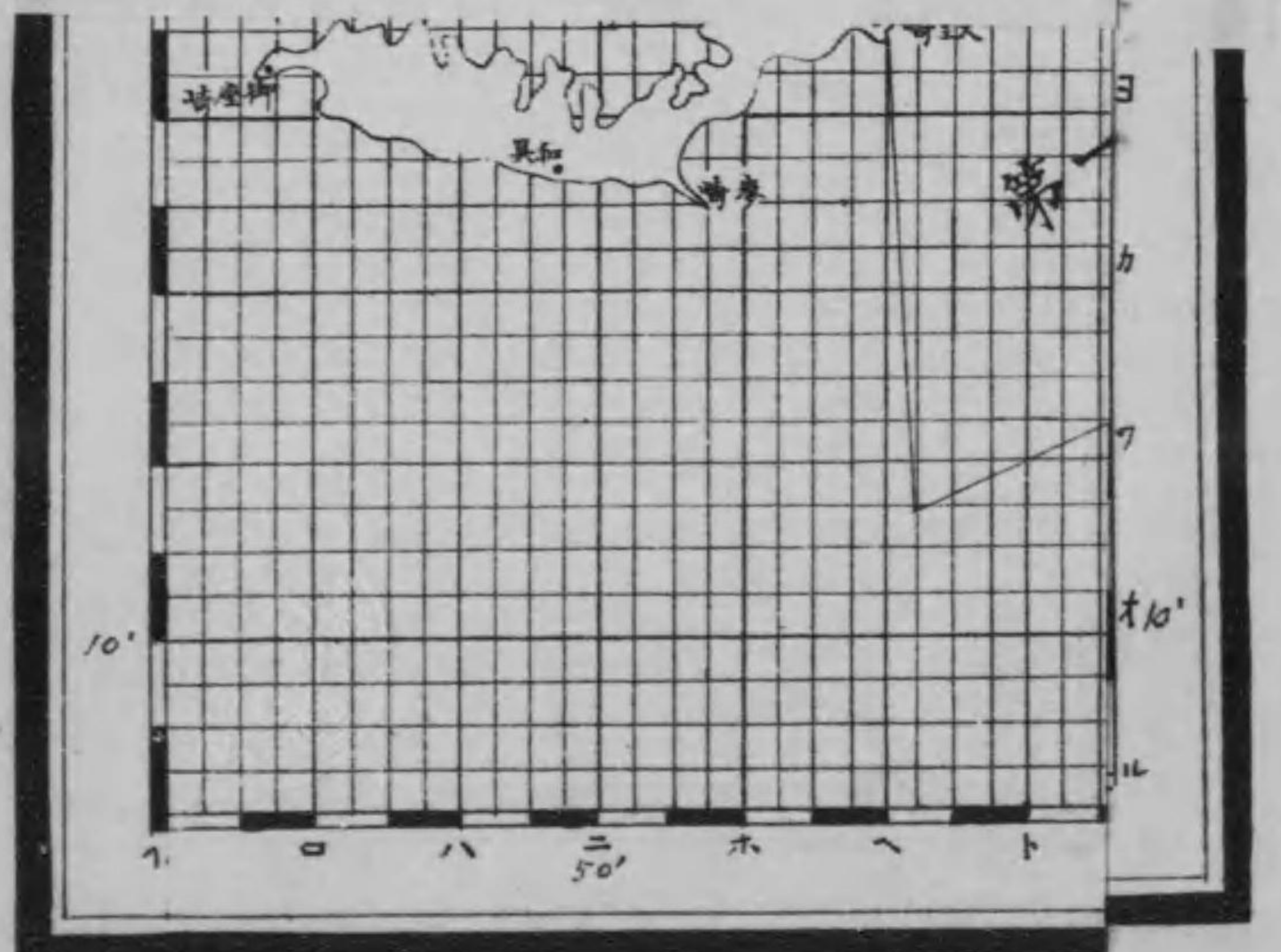
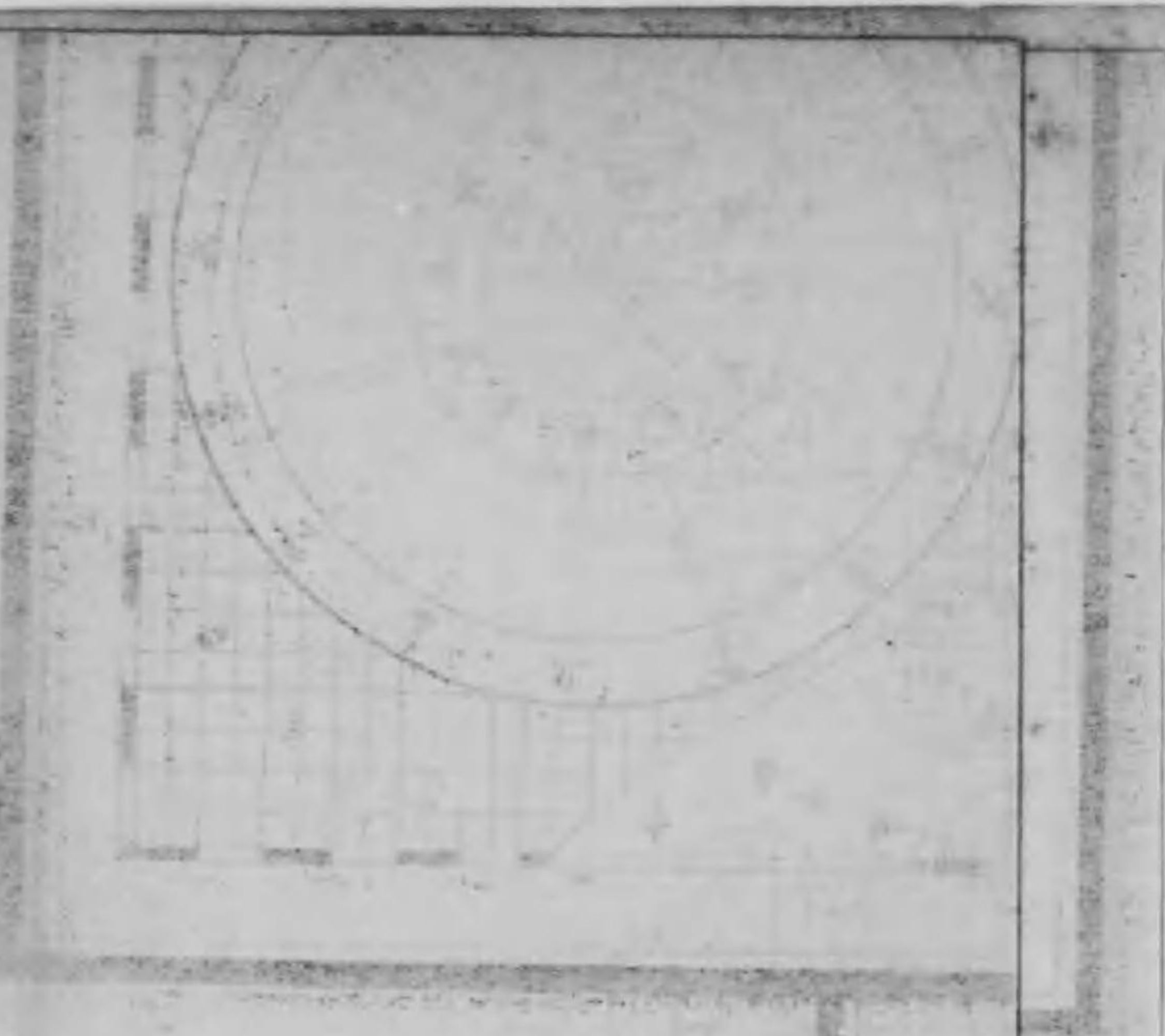
第二回、第三回ハ大山南微東十八湮附近海深百七十尋内外ナル地点ニ操業セルガ海底砂泥質ニシテ岩礁少ナク漁具引上ニハ容易ナリシモ鯨ノ釣獲僅少ニシテ泥河豚ヲ多獲シ之ガ爲メニ漁具ノ損傷著シカリキ

第四回ハ大山南東イ南十八九湮附近ニ漁具ヲ使用シタルニ鯨ノ好漁場ニ出會シ大鯨及鯨類ヲ多獲シタリ爾後業務都合上出漁セザリキ(別圖參照)

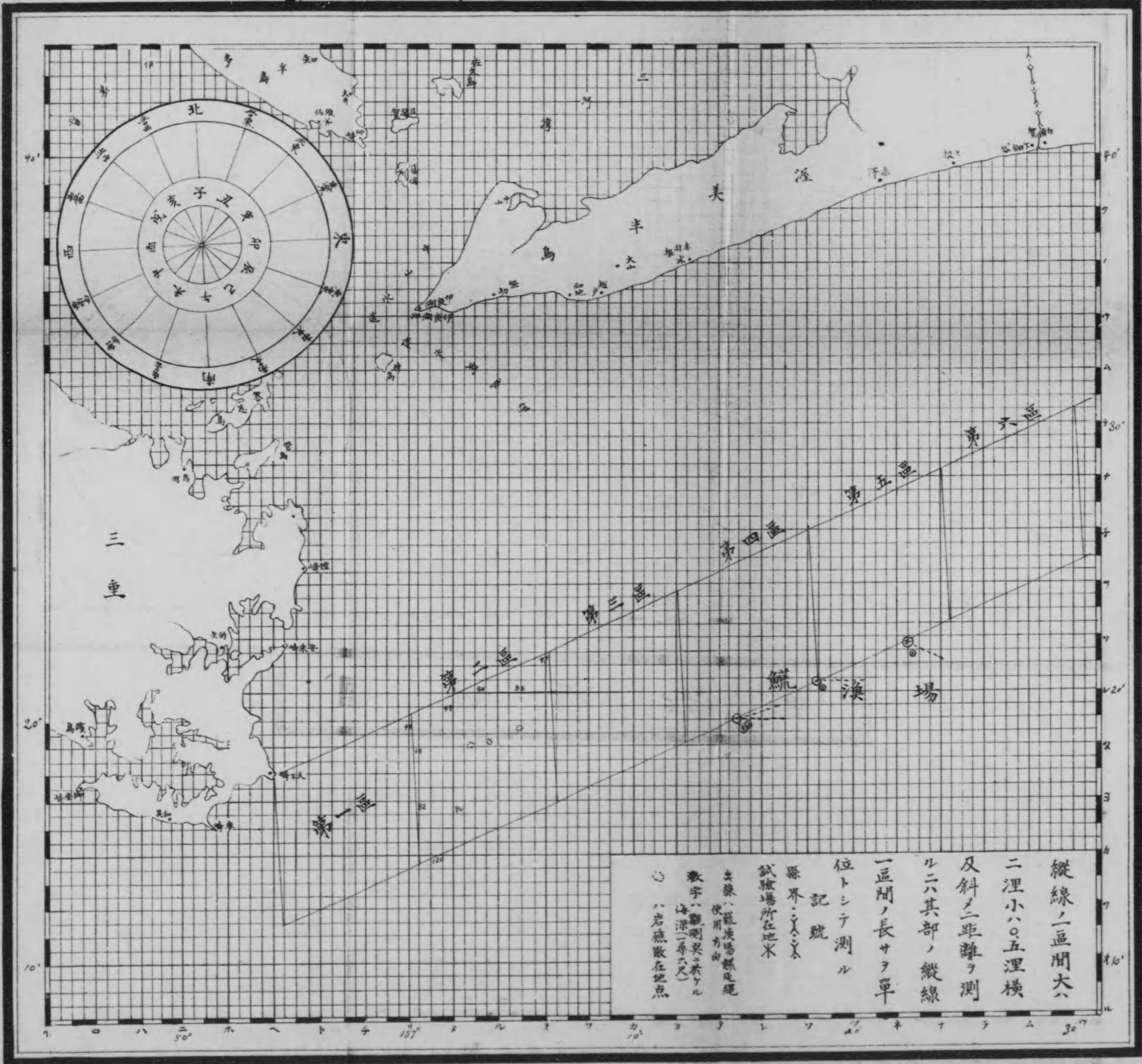
而シテ本場探檢ノ成績ニヨリ本年來休漁シ居タリシ篠島附近ノ鯨延繩漁業者ハ多數出漁ヲ競ヒ何レモ相當好漁ヲナシタリ本事業ハ將來之ガ學術的ニ探檢ヲ進メ海底ノ狀態潮流ノ關係棲息漁場ノ水温比重等ノ關係ヲ究査シ之ガ進展ヲ計ラバ最も有望ナル事業ニシテ斯業ニ裨益スル所甚大ナルモノアラント確信シ益々努力セントス

鯨 釣 漁 業 試 験

本試驗ハ前年度豫備試驗ヲ施行シ其ノ實績ヲ收メ縣下遠洋漁業開發ニ其最モ適應セル事ヲ確認セルヲ以テ本年度ヨリハ本試驗ヲ開始シ以テ縣下漁民ノ覺醒ヲ促シ大ニ之レガ誘導ニ努メタリ其試驗方法及經過並ニ成績ノ概要ハ次ノ如

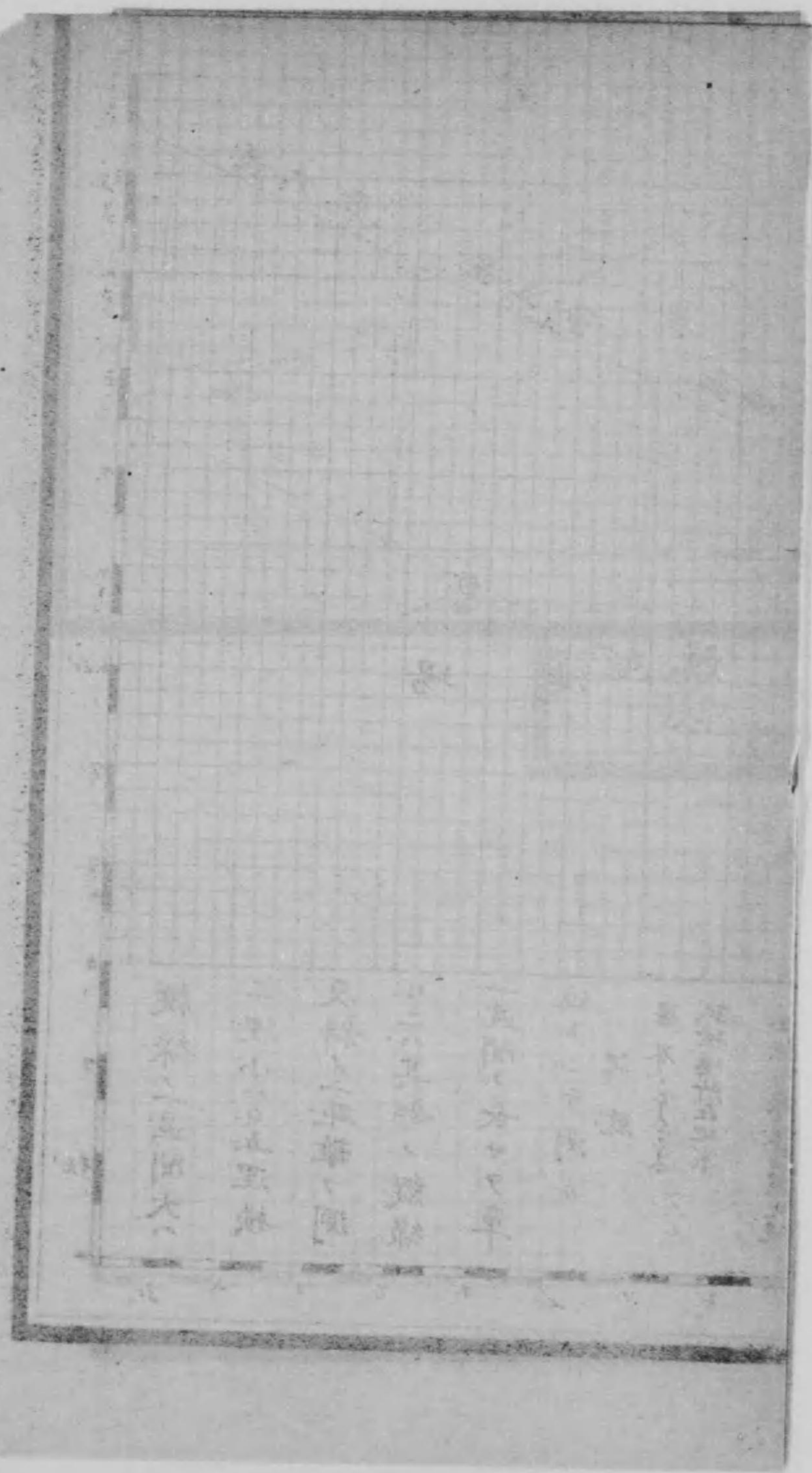


魚場探檢圖



61 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

夕棲息セルヲ探知セリ
 第二回、第三回ハ大山南東十八里附近水深百七十尋内外ナル地点ニ操業セルガ海底砂泥質ニシテ岩礁少ナク漁具引
 上ニハ容易ナリシモ鯨ノ釣獲僅少ニシテ泥河豚ヲ多獲シ之ガ爲メニ漁具ノ損傷著シカリキ
 第四回ハ大山南東十八里附近ニ漁具ヲ使用シタルニ鯨ノ好漁場ニ出會シ大鯨及鯨類ヲ多獲シタリ爾後業務都合
 上出漁セザリキ(別圖參照)
 而シテ本場探檢ノ成績ニヨリ本年來休漁シ居タリシ篠島附近ノ鯨延繩漁業者ハ多數出漁ヲ欲シ何レモ相當好漁ヲナシ
 タリ本事業ハ將來之ガ學術的ニ探檢ヲ進メ海底ノ狀態潮流ノ關係棲息漁場ノ水温比重等ノ關係ヲ究查シ之ガ進展ヲ計
 ラバ最モ有望ナル事業ニシテ斯業ニ裨益スル所甚大ナルモノアラント確信シ益々努力セントス



一、試験方法
漁船

二十五馬力石油發動機付肩巾九尺總噸數十一噸ノ和洋折衷型漁船壹隻ヲ三重縣下ヨリ借用ス
乗組員

總員十七名ニシテ實業教師トシテ三重縣志摩郡ヨリ船頭一名他ニ主要漁夫四名補助漁夫ヲ備入レ實地指導ニ從事セシメ縣下練習漁夫二名及本場漁夫六名ヲ以テ從事セリ

期間

經費ノ關係上遠州海及紀州海ニ於ケル鯉漁期自四月至十一月八ケ月中本縣外海ニ最モ接近群來スベキ時期自五月至八月上旬期間中七十日間之ニ從事セリ

漁場

紀州大島沖ヨリ遠州御前岬ニ至ル紀州海及遠州海ニ於ケル巨岸七八十哩ニ至ル海面ニ出漁セリ

餌料

本縣ニ於テ鯉餌料トシテ未ダ鯉及鯉ノ供給方法ヲ講ゼル者ナキヲ以テ適宜三重縣志摩郡ヨリ購入使用セリ
本年紀州海沿岸ニ於ケル鯉漁ハ真鯉ヲ交エテ一帯ニ著シキ豐漁ニシテ一方春夏候ニ於ケル鯉漁況稀有ノ不振ナリシカバ從テ鯉餌料ノ如キモ稀ニ見ル低廉ニ供給セラレ一籠(正味六七升入)ノ相場八九十錢ヨリ最高價ノ時ニ於テモ三圓ヲ多ク上ラザリキ

一、鯉釣漁業出漁日誌並ニ漁場圖

鯉釣漁業試驗出漁日誌

月日	漁場位置	漁具使用時間	天候	風向	風力	氣温	水温	餌料	使用量	漁獲物數量	漁獲代金	摘要
六月五日	大王崎南東	三十湊附近	晴	南	微風	三、五	三、五	八籠	—	—	—	麥崎東十五湊ノ地點ニテ鯉群ニ會シタルモ餌付不 良ニシテ釣獲ヲ得ズ再ビ 鯉ヲ見ズ
六月八日	自大王崎南東	至潮崎東二十湊	曇	南	微風	三、二	三、二	四籠	—	—	—	航走中再度鯉群ヲ見タル モ餌付不良ナリキ
六月九日	自紀州潮岬	至南西廿湊附近	晴	南	—	三、二	三、二	前日ノ	—	—	—	航走中更ニ鯉群ヲ見ザリ キ
六月十日	大王崎南	南西二十湊附近	全	全	—	三、二	三、二	—	—	—	—	沖合鯉群ヲ認メザリキ
六月十三日	忠摩麥崎	南九湊	曇	全	—	三、三	三、三	三籠	—	—	—	沖合鯉群ヲ認メザリキ 魚釣ニ從事セリ
六月十四日	大王崎南徑東	三十湊附近	晴	全	—	三、三	三、三	いか八十尾	—	—	—	鯉漁不況ノ爲メ鮪釣ニ從 事シタルドモ海況寂莫ナ リキ
六月廿二日	麥崎南々西	五湊	晴	全	—	三、三	三、三	鯉四籠	—	—	—	漁場ニ航走中發動機ニ故 障生テ運轉ノ自由ヲ失ヒ 引返ス
六月廿三日	麥崎南徑西	六湊	晴	全	—	三、三	三、三	前日ノ 鯖三十五尾	—	—	—	鯉漁場不況ノ爲メ鮪釣ニ 從事潮速クシテ成績不良 ナリキ
七月十五日	紀州三木崎	東ノ南十三湊	晴	無	—	二、一	二、一	鯉十籠	—	—	—	餌付良好ノ鯉群ニシテ釣 獲容易ナリキ

七月十七日	大王崎南東	三十五湊	晴	南	軟風	二、四	二、四	十籠	—	—	—	金參百八十 八圓卅二錢 餌付非常ニ良好ノ大群ニ シテ好獲セリ
七月十八日	大王崎東	四十五湊	曇	南	微風	二、六	二、六	八籠	—	—	—	漁場變調シ水色不良ニシ テ魚群ニ會セザリキ
七月十九日	三木崎南東	二十五湊附近	曇	南	微風	二、五	二、五	鯉六籠	—	—	—	鯉群ニハ再三會シタルモ 更ニ餌付カズ釣獲ヲ得ザ リキ
七月廿二日	大王崎南東	二十二湊	晴	南	軟風	二、五	二、五	鯉十籠	—	—	—	二回ニテ釣獲シタルモノ ニテ後ノモノハ餌付良好 ナリキ
七月廿三日	大王崎南東	六十湊	全	全	—	二、七	二、七	鯉十籠	—	—	—	魚群沖合ニ遠隔シ十二時 間航走シ漸ク會シタルモ ノナリ
七月廿七日	大王崎南々東	五十湊附近	曇	南	和風	二、五	二、五	鯉五尾	—	—	—	沖合一帶魚群稀薄トナリ 遇々會スルモ餌付不良ノ モノナリ
七月卅一日	大王崎東	四十湊附近	晴	南	軟風	二、二	二、二	全	—	—	—	沖合一帶魚群ヲ見ザルニ 至リヌ

一、試驗ノ經過及成績

本年度春夏期ニ於テ紀州海及遠州海ニ來游シタル鯉ハ數十年來且テ相見ザル稀有ノ現象ヲ呈シ例年ナレバ三月末或ハ四月ノ初メニ初漁アリテ漸次該釣漁業開始セラレ五月末ヨリ六七月ニハ數回周期的盛漁ヲ呈スルモノナルガ本年三四月頃ハ例年ヨリ海水温度一度乃至二度低下セル傾向ナキニ非ラザリシガ四月末ヨリ五月ニ及ビ海況順調ニ復シタルモ更ニ沖合鯉ノ群影ヲ認メズ六月ニ入りテ僅カニ沖合小群ヲ認ムルモ之亦餌付カズシテ釣獲ヲ得ズ爲メニ本年當方面

ノ鯉漁ハ全ク絶望セラレ、ニ至レリ然ルニ七月ニ入り十日過ギ俄然鯉ノ大群紀州三木崎沖合ニ來游セルニ始マリ一時ニ活況ヲ現出シ面目ヲ一新シ當業者愁眉ヲ開キ一時非常ナル盛況ヲ呈セリ然レドモ其期間ハ極メテ短ク僅々旬日ヲ出デズシテ魚群沖合ニ遠隔シ下旬ニ至リテハ再び沈靜ニ歸シタリ

本試験ハ六月上旬ヨリ出漁試験ニ從ヒ紀州大島沖ヨリ志摩大王崎南東五六十湊附近迄再三漁場探檢ニ努メタルモ更ニ其ノ群游ニ會セズ隔々小群ヲ認ムルモ餌廻ニシテ餌付カズ更ニ釣獲ヲ得ザリシガ七月中旬大群來游ニ際シテハ七月十五日ヨリ七月三十一日ニ至ル間ニ九日出漁ニ從事シ内五日間釣獲ヲ得一尾一貫目内外ノ鯉一航海百尾二百尾三百尾ノ好漁ヲ舉グ七月十七日ニ於テハ全大鯉一千餘尾ノ大漁ヲ收メ漁獲期間極メテ短ク僅々數時間ニ過ギザリシニ拘ラズ豫期以上ノ好成绩ヲ示セリ然シテ七月末以降再ビ更ニ群影ヲ見ザルニ至リ出漁ニ從事セズシテ豫定期間ノ終了ヲ遂ゲタリ之ニ依リテ鑑ミルニ本年ノ如キ稀ナル不漁期ニ際シテ尙斯ル効果ヲ收メ得タルハ漁場ノ適確ナリシハ勿論ナリト雖モ一面又前年度來ノ鯉釣練習漁夫ノ鯉釣ニ習熟ノ効ヲ充分証スルニ余リアルモノニシテ縣下將來ニ於ケル外海漁業トシテ本漁業ハ愈獎勵且ツ誘導スベキ最モ適切ナル事ヤ喋喋論ヲ俟タザル所ナリト信ズルモノナリ爰ニ於テ本場ハ此後益々之ガ根本的開發ニ努力シ以テ最終ノ成果ヲ獲得セント欲シテ已マザルモノナリ

大正五年ニ於ケル三重縣靜岡縣ノ鯉漁況

今隣縣三重靜岡兩縣ニ於ケル大正五年中ノ鯉漁況ヲ録シ以テ斯業ノ參考ニ資セン

靜岡縣

三月中鯉漁況

例年本縣ニ於ケル鯉ノ初漁ハ二月ニシテ二月下旬ニハ相等釣獲アリシモ本年ハ輕油暴騰ノ影響ヲ受ケ出漁ヲ見合ハ

シ且ツ本縣大型鯉漁船ハ鮪釣漁業ニ從事スル者少ク加フルニ例年ニ比シテ鮪漁獲ナキヲ以テ出漁スル者少ク而シテ鯉ノ來游モ例年ニ比シ後レタリ昨年ハ三月上旬ニ於テ多少漁獲アリタルニ本年ハ昨年ヨリモ後レ三月十日燒津大洋丸五ハ三本嶽附近ニ於テ一貫乃至一貫五六百匁ノ鯉約百尾ヲ釣獲ス潮色良好ナリキ次デ三月十六日日出九紀州尾鷲ヨリ六湊ニテ鯉群ヲ見タルニ潮色惡ク餌ニ付カズ同三十湊沖ニテ一貫五百匁乃至二貫ノ鯉約十尾釣獲ス潮色惡シ鯉ノ初漁アリシヲ以テ他船モ競ヒテ出漁セントスルモ縣下ニ餌料ヲ求メントスルモ餌廻ナク縣外ニ於テモ不足ニシテ出漁シ得ザル有様ナリ

四月中鯉漁況

靜岡縣

本年本縣ニ於ケル鯉漁況ハ例年ニ比シテ非常ニ後レ三月十日ニ初漁アリテ三月中ハ十五、十六、十七日ニ僅カ一航海百五十尾乃至三百尾ノ漁獲アリシノミニシテ其後四月ニ入リテモ漁獲更ニナク且ツ石油ノ高價ナル影響ヲ受ケ漁場ノ探檢モセザルヲ以テ一層淋シク休船スルノ状態ナリ四月二十日以後ニ於テ多少漁獲ヲ見ルニ至リタレド漁獲千尾以内ノ漁船多シ最高三千尾位ノ漁ニテ昨年ノ同時ニ比シテ甚シク不漁ナリ

漁場ハ八丈島黒瀬三宅御倉島附近トス

魚体ハ不同ニシテ七百匁乃至三貫匁位ナリ

餌料ハ甚シク少ク餌料ナキ爲メ出漁シ得ザル場合多ク四月下旬ニ入りテヨリハ多少有レド多トスルヲ得ズ伊豆内浦清水相州腰越ニテ活ケ一航海一隻持百圓以上二百圓位迄ナリ

三重縣

本年縣下外洋ニ於ケル海洋状態ハ一二月ニアリテ二十度乃至二十一度ノ黒潮流域ハ其勢力ヲ退フシテ近ク潮神ヲ洗

ヒテ東奔セリ爲メニ一月以降之ガ流域ニ出漁セル鮪延繩船ニヨリ鮪ト混テ引續キ多少ノ漁獲ヲ見タリシニ其後暖流ノ勢力漸次衰退シ二十度以上ノ水帯ハ遠ク南下シ四月ニアリテハ却ツテ同一位置ニ十七度内外ノ水温ヲ見ルニ至レリ之ヲ昨年ノ同期ニ比スルニ其上半期ニアリテハ水温著シキ懸隔ナキモノノ如クナレドモ東部沖合ニ十六度線ノ出現ヲ見タルト其比重昨年ノ一、〇二六三乃至一、〇二六四〇ナルニ本年ハ一、〇二六一〇乃至一、〇二六二〇ヲ示セリ

更ニ昨年後半期ニアリテハ暖流著シク其勢力ヲ増シ二十一度線ハ三木崎南方三十哩附近ニ凸入スレドモ本年ニアリテハ遠ニ之レガ出現ヲ見ズシテ終レリ爲メニ其漁況モ著シク不振ニシテ昨年下半年ノ如キ大漁ナク四月三日三木崎南四十哩附近ニテ三百四十尾ノ初漁ヲ見タル以來斷續的ニ好漁ノモノニテ二百尾内外ノ漁獲アリシニ過ズ漁事至ツテ閑散ニシテ從テ出漁スルモノ亦少ナシ

魚体ハ不同ニシテ五六百尾乃至二三貫ニシテ貫六十錢乃至八十錢ナリ

餌料鮠ハ各浦トモ相當豐富ナレドモ鯉魚不振ノ爲メ煮子鯉等ノ製造ヲ見ル有様ナリ

五月 中 漁 況

靜岡縣

五月ニ入りテ前月二十日ヨリ引續キ大漁ト云フニアラザレドモ多少ノ漁獲アリ五月上旬ニ於テハ最高千五百尾最少二百尾中旬ニ入りテハ尙振ハズ十四、十五、十六日ニ一千二千尾ノ釣獲アリシノミ下旬ニハ不振甚シク五百乃至二千尾ノ釣獲アリシモノ僅カナリキ昨年ノ同期ニ比シテ表層ノ温度ハ平均〇、六高クレドモ潮色悪ク鯉群見ユルモ餌付惡シ八丈以北ノ漁場ニ於テハ思ハシキ漁ナキモ南方漁場ニ出漁スル場合ニハ或ハ多少ノ漁獲アルベキモ燃料高價ノ關係上出漁スルモノ少シ

漁場ハ八丈島北黒瀬御倉島及錢州磯附近ニシテ例年ナレバ五月下旬ニ於テハ遠州沿岸金州ノ瀬附近ニモ多少鯉群ヲ

ルモ本年ハ更ニ其ノ影ヲ認メズ魚体ハ最小四五百尾最大三貫位ニシテ普通一貫内外ニシテ比較的脂肪多ク鯉節ノ原料トシテ適當ノモノニ非ズ

餌料ハ清水港伊豆内浦江ノ浦灣西浦村ニテ相當供給セラル、モ多少相州腰越附近ヨリ補給ス

一航海一隻持一石五斗乃至二石ニテ五十圓乃至百五十圓位ニテ普通百圓内外ナリ

三 重 縣

前月ノ不振ハ本月ニ入りテ益々甚ダシク縣下沖合ニハ殆ンド鯉ノ來游ヲ見ザルガ如キ状態ヲ呈シ僅ニ初旬和歌山縣潮岬附近ニテ一尾七八百尾ノモノ五十尾内外次々中旬ニ至リ大王崎南東四十五六哩附近ニテ一貫五百尾廻リノモノ約五十尾ヲ釣獲セル以來絶エテ漁獲セルモノナク且燃料高騰セルニ加フルニ當期ニ群來スル小鮪漁モ至テ閑散ナリシ爲メ出漁スルモノ極メテ少ク殆ド休漁ノ状態ヲ以テ經過セリ

餌料鮠ハ相當豐富ナレドモ前記ノ結果全部煮干鯉ニ製造セシ有様ナリ

六月 中 漁 況

靜岡縣

本縣ニ於テハ年々六月中ハ相當漁事アルモノナルニ本年ハ非常ナル不漁ニシテ六月ノ初旬ニ於テハ僅カ一千尾以下ノ漁ヲナスモノ多少アルノミニシテ中旬ニ於テハ漁事更ニナク休漁スルモノ多ク下旬ニ於テハ八丈島以南ノ遠隔漁場ニ出漁セルモノハ一航海二千三百尾ノ漁アレドモ出漁スルモノ僅カニシテ八丈以北ハ漁事ナキヲ以テ多ク休漁セリ

魚体ハ六百尾乃至二貫ニシテ普通一貫目内外ナリ

餌料ハ不足ナレドモ漁ナキヲ以テ廉價ヲ示シ一航海持約一石六斗最高九拾五圓最低四拾圓普通五六拾圓ナリ本縣ニ於テハ漁場ハ昨年鳥島漁場ヲ拓キ本年ハ御前岬村發動機船福吉丸(總噸數四十三噸五十馬力)ハ碓婦岩漁場迄出漁シ今ヤ

南方ハ小笠原群島ニ接セントス

三 重 縣

前月ニ引續キ本月ニ入りテモ鯉ノ來游ナカリシ爲メ一般ニ休漁ノ姿ナリシガ沖合多少魚群ヲ認メ海況比較的良好ナリシガ梅雨ノ候ニ入りテハ天候概ネ不良ニシテ出漁ノ日少ナク且ツ沖合濃雨ニ伴フ出水ノ爲メニ沖合一帶海水混濁シ全ク魚影ヲ潜ムルニ至リ以テ本月ヲ終レリ如斯狀態ハ數十年來嘗テ見ザル所ナリ

七 月 中 漁 況

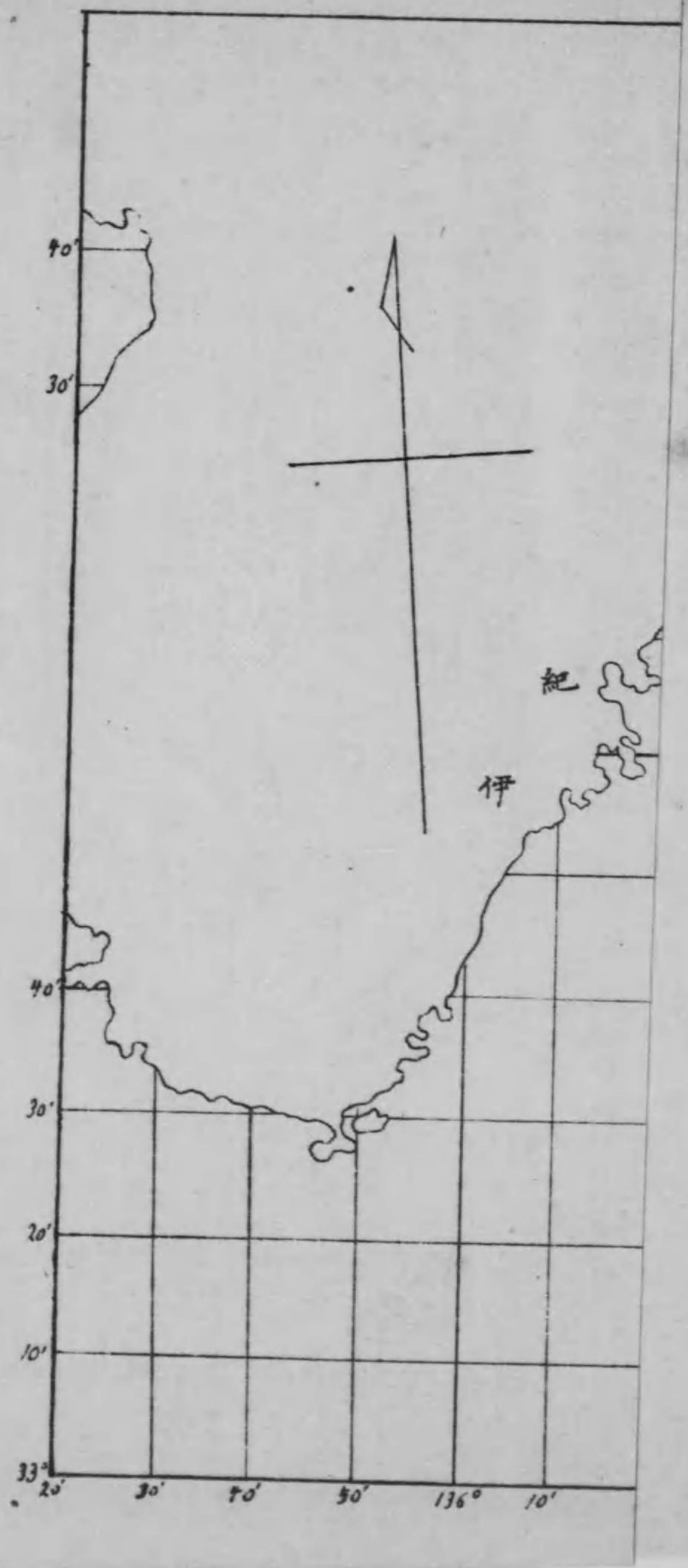
三 重 縣

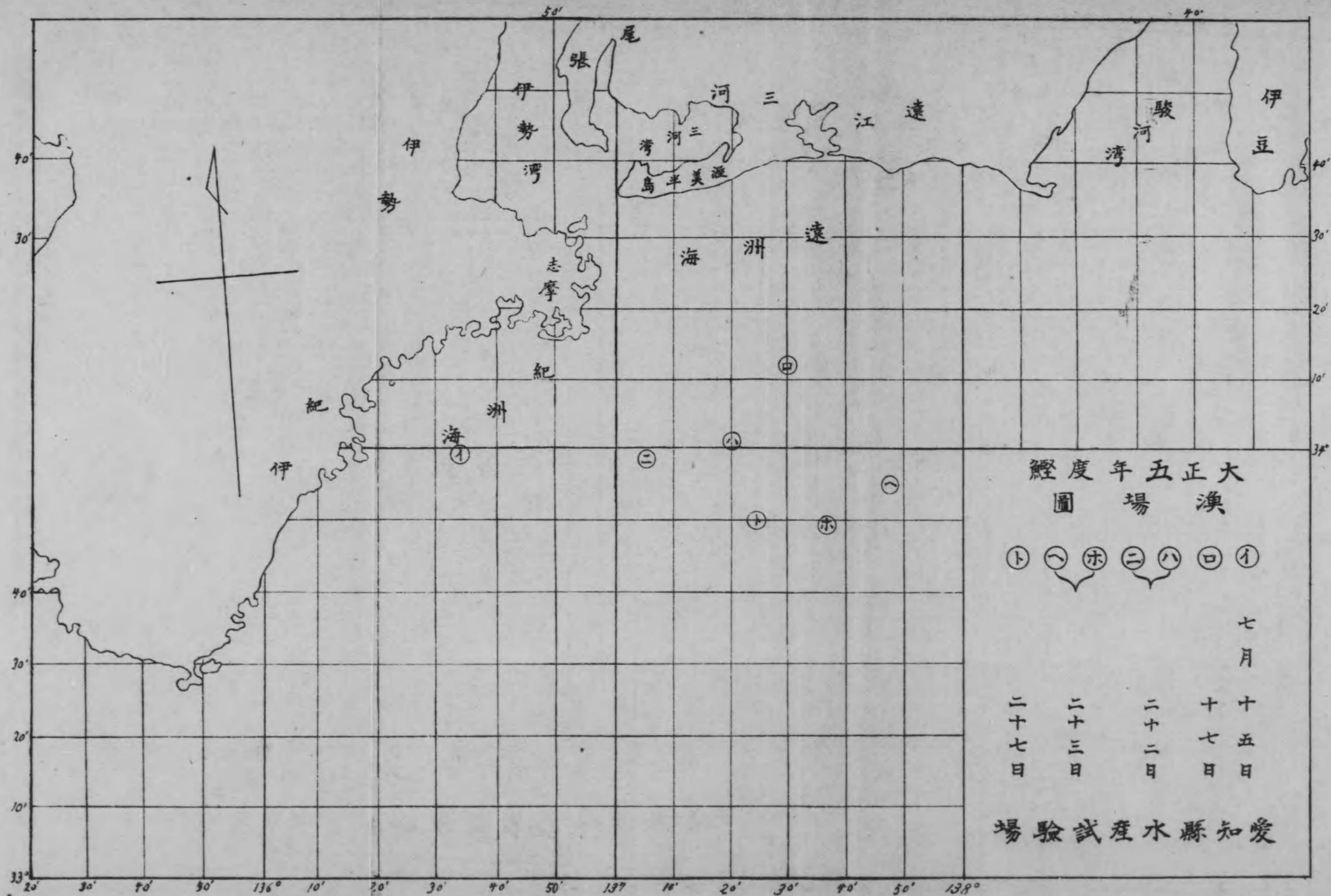
本月一二日ノ頃ニアリテハ大王崎東方沖合ニ於テ多少鯉群ヲ認メタルモ概ネ餌付不良ニシテ一尾七八百匁ノモノ最多一隻五十尾内外ヲ釣獲セルニ止マリ其後漁事中絶ノ姿ナリシガ十二日三木崎東微南十二三哩附近ニ出漁セルモノ大群ニ遭遇シ餌付良好ニシテ七八百匁廻リノモノ五百尾内外ヲ漁獲セルアリ翌十三日ニハ大王崎沖合ニモ亦來游ヲ見ルニ至リ各浦漁船ハ等シク活動ヲ開始シ一貫目廻リノモノ一隻最多千尾内外ヲ漁獲シ以後引續キ好況ヲ持續セルモ下旬ニ至リテ漁事稍閑散ヲ告ゲルト同時ニ二百匁乃至四百匁廻リノモノヲ混獲シ稀レニ一隻千尾内外ノ漁獲ヲ見タリシモ概テ二三百尾以下ノ漁事ニシテ本月ヲ終レリ

八 月 中 漁 況

靜 岡 縣

初期以來ノ不況ハ例年ノ不漁時期ナル本月ニ至リ益々甚シク昨年ノ如キ不漁時期ナルニ係ラズ初月中旬ハ六百乃至二千尾ノ釣獲ヲナシ下旬遠距離ニ出漁セルモノハ二千乃至八千ノ漁獲ヲナセシガ本年ハ極メテ寂寞ニシテ休漁スルモノ





大正五年正度
 漁場圖

ト	ㄣ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ
						七月
						十五日
二十七日	二十三日	二十二日	十七日			

愛知縣水産試験場

千尾ノ釣獲ヲナシ下旬遠距離ニ出漁セルモノハ二千乃至八千ノ漁獲ヲナセシガ本年ハ極メテ寂寞ニシテ休漁スルモノ



甚多シ初旬八丈島附近ニ出漁セシモノハ四百五十尾ヨリ一貫目ノモノ二百尾乃至千四百五十尾ヲ釣獲シ又新黒潮ニテ小鯉七八千尾ヲ釣獲セルモノアルモ一般ニ極メテ不振ニシテ中旬ハ益々甚シク廿一日青島附近ニ出漁シ千五百尾ヲ釣獲セルニ止マリ又二十四日三宅島附近ニテ四百五十尾ヨリ一貫目ノモノ千二百尾ヲ釣獲セルニ過ギズシテ一般漁況依然トシテ振ハズ多ク繫船休漁セリ

魚價ハ初旬ハ一貫八十錢乃至一圓中旬ハ殆ド漁ナク下旬ニ及ビテ一圓二十錢ヲ稱ヘリ
餌料ハ相當潤澤ナリ一艘持四五圓ナリキ

三 重 縣

本月一日ハ風波高キ爲メ一般ニ休漁シ二日天候回復ト共ニ出漁シタリシモ百尾乃至二百尾廻リノ鯉群ノミニシテ餌付極メテ不良ニシテ再ビ休漁スルノ止ムナキニ至リ然ルニ中旬ニ至リ大王崎方面ニアリテハ距岸二三哩乃至五六哩附近ニ於テよこわ泥リ小鯉群ノ襲來スルアリ最多一隻四百貫ノ漁事ヲ見各浦漁船ハ競ツテ出漁スルニ至リ稍活氣ヲ呈シ以テ本月ヲ終レリ

以 上

漁撈傳習生養成

本年度ハ適當ナル志願者ナカリシヲ以テ傳習生養成ヲ施行セザリキ

製 造 部

技 手 大 島 慎 二

本年度ニ於ケル事業ハ前年度ニ引續キ「アンチヨビー」(捕鯊鯨)製造試験、飼利用試験、輸已向蝦罐詰製造試験經驗製造試験ヲ施行シ又製造雜試驗トシテ鯨油製造試験並ニ王余魚罐詰製造試験ヲモ施行シ傍ラ製造科傳習生ノ養成ニ從事シタリ

今左ニ其ノ梗概ヲ述ブヘシ

「アンチヨビー」(捕鯊鯨)製造試験

前年度ニ引續キ農商務省水産局、神奈川縣水産試驗場等ト聯絡シ製造試験ヲ施行シタリ、然シテ本年度ハ先年神奈川縣水産試驗場ガ製品三十基洋樽詰ヲ横濱市三忠商店へ委託シ英國倫敦ニ試賣シタル結果之レニ用フル容器トシテハ樽ヨリ寧ロ十二基半入ノ鐵葉罐トナスヲ適當トストノ品評ヲ齎シタルニ基キ全場ト打合セ本場モ畧全様ノ鐵葉罐(十三基入)ヲ準備シ二十個試驗スル計畫ナリシガ不幸ニシテ内灣ニ原料大鯨ノ來游スルコト極メテ乏シク多數ニ適當ナル原料ヲ得ルコト能ハザリシヲ以テ漸クニシテ二罐分ヲ試製シ製法ニ關スル研究ヲナシタルニ止マリ之レガ製品ヲ海外市場へ試賣シ經濟上ノ關係等ヲ調査スルニ到ラザリキ今試驗ノ概況ヲ述ブレバ左ノ如シ

原 料

試驗ニ供シタル原料ハ大正五年十二月三日知多郡豐濱町沖合ニテ巾着網ヲ以テ漁獲シタル大鯨ニシテ其ノ大テ平均身長三寸乃至三寸六分体高五分乃至六分体重三三分乃至三九分即チ一桶(一斗)收容尾數一千八百尾乃至一千四百尾内外ノモノナリキ、而シテ原料トシテハ泰西市場ノ品評報告等ニヨリ可成大形ナルモノ適當ナルガ如キヲ以テ右原料購入ニ

際シテモ極力此ノ點ニ留意シ大形ノモノヲ選出シタリシモ本年ハ到底豫期ノ大サノモノヲ得ル能ハザリシヲ遺憾トス

製 造 方 法

製造方法ハ前年來施行シタル方法ト大差ナク一旦選別シタル原料ヲ飽和塩水中ニ約十時間以上浸漬シテ頭鰭ヲ除去シ血抜洗滌シ然ル後四斗樽中ニ約一割五分ノ割合ヲ以テ假漬ヲ施シ壓ヲ加ヘ爰ニ魚体ヨリ浸出シタル褐色ノ液汁ハ時々之レヲ排除シカクシテ約一ヶ月間余ヲ經過シタル頃取出シ十三基入罐ニ本漬シタルモノトス、本漬方法モ容器ヲ異ニシタル外大体樽詰ノ方法ト同様ナルガ今回ハ内容物熟成スルト共ニ運搬等ニ際シ往々肉ノ動搖シ崩壊スルヲ防止センガため特ニ罐ノ蓋底ト内容物トノ間ニ木製内蓋ヲ挿入シ且該蓋ニハ各其ノ外方ニ厚サ約三分許ノ木棧ヲ添ヘ蓋汁ハ自然其ノ各容蓋ノ外方即チ罐蓋底トノ間隙ニアラシムルガ如ク裝置シタリ而テ本漬用鹽ノ割合ハ假漬後正肉重量ニ對シ五分并一割ノ二種ニ分テ又何レモ罐裝後之レニ飽和塩水ヲ充填シタリ

用鹽ハ其ノ精粗ガ製品々質ニ及ボス影響頗ル大ナルヲ以テ特ニ精選シテ三田尻産「カナワ」式一等鹽ヲ使用セリ又右用

罐ハ已ニ述ベタルガ如ク海外市場ノ品評ニ基キ考案シ特ニ東京市月島清州商店ニ托シ製作セシメタルモノニシテ其ノ

形狀寸法等左ノ如シ

- 蓋底直徑 八寸三分 罐筒高 八寸八分
- 罐 型 九型内嵌式(胴付ニケ所端折式ラツカード百斤板使用)
- 今左ニ右一罐ニ對スル正肉重量、鹽量其他明細ヲ示サン
- 正 肉 重 量 (胴 漬 後) 三、五〇〇 匁
- 本 漬 用 鹽 量 (五 分 ノ モ ノ) 一、七五 匁
- 容 器 重 量 三、三〇〇 匁

注入塩水量

計

、三〇〇
四、二七五

一八

生産費 今一罐ニ對スル生産費ヲ示サバ左ノ如シ

金四圓三十二錢

一 罐 分

内 譯

品 目	數 量	單 價	計 金
原 料	二 桶	、八〇〇	一、六〇〇
容 器	一 ヶ	、九〇〇	、九〇〇
食 塩	三、六〇〇 匁	、二〇〇	、七二〇
人 夫	四 人	、二五〇	一、〇〇〇
雜 費			、一〇〇
			〇

製品處分

本年度ハ製品トシテハ己ニ述ベタルガ如ク僅ニ十三基罐入二個ヲ試製セシニ過ギザリシガ故ニ海外市場
ヘ試賣シ以テ彼地ニ於ケル品評等ヲ調査スルコト能ハザルニヨリ本場ヘ其ノ儘貯藏シ貯藏中ニ於ケル内容物變化ノ狀
態等ヲ研究スルコト、ナセリ

海外市場ニ於ケル本邦製「アンチヨビー」ノ品評

先年神奈川縣水産試験場ガ試製シタル三基洋樽機詰「アンチヨビー」ヲ英國倫敦ニ試賣シタル結果全市場ヨリ齎シタル

品評報告ハ本試験施行上大ニ參考トナルヲ以テ左ニ掲グベシ

「アンチヨビー」品評報告

一、品質 本製品ハ好箇ノ「ベースト」製造向品ニシテ同等ノ西班牙品ノ價格ヲ以テスレバ賣行甚ダ良好ナルヲ得ベ
シ、現在西班牙品ノ價格ハ十七基罐二個入(容量四貫五百匁許)一箱十五志「バンドレットドゥエイト」(百十二封度)廿
五志ナリ但シ倫敦波止場渡トス

一、鰾体ノ大サ 余ノ落手セシ樽詰ハ形大ナラズシテ「ベースト」製造ニ用フルノ外ナキガ如シ佛蘭西、伊太利並
ニ西班牙産ハ肉厚ク幅廣ク一般ニ日本品ヨリ大形ナルヲ以テ之レヲ三枚ニシ「オールドール」用ニ販賣セラルレドモ
該日本品ハ到底不可能ナリ

一、塩水 塩水ハ其度甚ダ可ナリ然レドモ經驗深キ某當業者ハ左ノ二注意ヲ與ヘタリ

(一)製品ヲ樽又ハ罐ニ詰ムル前數日間傾斜セル板間ニ層々撒塩シテ積ミ上ゲ置クベシ斯クスレバ魚体ノ水分ハ油ト共ニ
ヨク除去セラル、ヲ以テ肉詰モ適度ニ行ハルベク随ツテ本容器内ニ見ルガ如キ多量ノ液汁ヲ殘サレバ外觀ヲ損スル
コトナカルベシ

(二)伊太利、佛蘭西、西班牙ニテハ其ノ塩水ヲ製スルニ精製塩ヲ用ヒズシテ寧ロ海鹽ヲ用ヒ居レリ、之レ惟フニ一般ニ
此ノ塩水ハ魚肉ニ歐人ノ愛好スベキ芳香ヲ附與スルガ如ク信ゼラル、爲メ日本品ノ厭ハシキ鰾肝油臭ニ似タル臭氣ヲ
帶ブルハ如何

一、詰メ方樽詰ハ甚ダ面白カラズ寧ロ之レヲ十二基半ノ罐ニ詰メテ封鐵シ其ノ二個中隔ヲ有スル木箱中ニ容ル、ノ
勝レルニ如カズ事實樽ハ塩水ノ漏失シ魚肉ヲ乾燥セシメテ痛ク其ノ價值ヲ損易キヲ以テ甚ダ好マシカラズ、故ニ樽
ヲ用フトセバ其ノ撰擇ヲ嚴ニスルハ勿論絶エズ注意ヲ拂ヒ時々塩水ヲ注加シテ魚肉ノ保全ヲ計ラザルベカラズ、然ル

ニ罐詰ニセバ此ノ費用ト危険トハ全然除カル、ノミナラズ魚肉ハ木製容器中ニアルガ如ク熟成シ然モ何等ノ恐レ
ナク遙ニ長期ノ保官ニ堪フベシ

一、重量 正味肉重量ハ常ニ其ノ正シキヲ保証セラレ、コト頗ル必要ナリ

結論 (一)前記日本製「アンチヨビー」ハ其ノ其ノ内容正味量ガ常ニ正シク魚ノ品質ヲ良好ニ且其ノ價格ガ伊太利、佛蘭
西、諾威、西班牙産ト全程度ニテ可ナラバ前途甚ダ有望ナル商品タルヲ得ベシ

(二)肉詰原料ノ選擇ヲ注意シ全一罐詰内ニ大小混在セシメザルヲ可トス、原料魚ノ大形ナルモノハ其ノ小形ニシテ三枚
ニナシ得サルガ如キモノニ比シテ遙ニ高キ價ヲ爲ス例令本回ノ製品ハ「ハンドレツドウエイト」廿五志ノ價ヲ有スル
コト前述ノ如クナレバ其ノ更ニ大形ニシテ遠ノ漬適度ナルモノハ優ニ四十五志以上ノ價ヲ有ス

(三)前記肉詰前數日間撒塩シテ放置スルコトハ魚体ノ水分ヲ滲出セシムルト共ニ脈ハレキ魚氣ヲ有スル油ヲ除去スル上
ニ於テ甚ダ重要ナル關係ヲ有スルナランカト考ヘラル

(四)之レヲ罐詰スルニ際シテハ堅ク充填スルヲ要シ又罐蓋ト肉トノ間ニ木片ヲ狭ミ置クヲ適當トナス

蠶 利 用 試 験

本縣下内灣各地沿岸ヲ通シ饒産セラレ、蠶ノ利用法増進ノ目的ヲ以テ前年度ニ繼續シ試験ヲ施行シタリ然シテ本年度
ハ輸出向水蒸罐詰製造試験ハ見本品少數ヲ試験シ併セテ之レガ製法其他ノ研究ヲ施行セシニ止メ主トシテ内地向時雨
煮製品ノ試験ヲ行ヘリ依ツテ今時雨煮製造試験ニ關シ其ノ概況ヲ左ニ述ブベシ

蠶 時 雨 煮

前年度試験シタル結果ニ鑑ミ本年度ハ稍々其ノ製法ニ改良ヲ加ヘ製品合計二十七メ々ヲ試製試賣シタリ

原 料

原料ハ前年度ト全様知多郡日間賀島産ノ蠶(方言まあさり)及ビ鬼蠶(方言しとぶ)合計四石七斗ヲ購入シ四月廿四日製
造試験ヲ施行シタリ
今參考ノタメ各種ニ付一升(五百メ)ニ對スル粒數一粒重量、殼長殼高並ニ殼巾等ヲ示シ比較セバ左ノ如シ

種 別	項 目	一 升 粒 數	一 粒 重 量	殼 長	殼 高	殼 巾
蠶	大	五二	九 _六 六	一 _七 五	八 _〇 〇	一 _、 二 _五
	中	一〇九	四 _、 六	一 _、 三〇	六 _、 五	九 _、 五
全	小	一九二	二 _、 六	一 _、 〇五	五 _、 五	八 _、 〇
	大	四二	一 _二 、〇	一 _、 七〇	一 _、 〇〇	一 _、 五 _、 〇
鬼 蠶	中	七七	六 _、 五	一 _、 四〇	八 _、 〇	一 _、 二 _、 〇
	小	一六六	三 _、 〇	一 _、 一〇	五 _、 五	九 _、 〇

製 造 方 法

製造順序並ニ方法ハ前年度ト全様ニ一旦海水中ニ凡ソ一夜間放養シテ充分砂泥分ヲ排出セシメ後蒸籠内ニ入レ五封度
三十分間内外蒸養シ取出シ其ノ放温セザル内一々手ニテ精肉ノミヲ採收シタリ、カクシテ後之レヲ清水中ニ入レヨク
洗滌シ汚物並ニ砂泥分ヲ除去シ豫メ二重釜中ニ醬油一斗糖蜜一升ノ割合ヲ以テ配合シタル調味液中ニテ三十分間内外
煮熱調味ヲ施シタリ、然シテ之レニ用ヒタル一回ノ分量ハ約五メ々トシ之レニ其ノ一割即チ約五百メ内外ノ生薑ノ切
片ヲ添加シ絶エズ攪拌ヲ行ヒ平均ニ調味スルヲニ務メ一旦蒸籠ニ取リ上ゲタリカクテ後調味液ノ殘液ニ水飴ヲ加味シ
此ノ中ニテ更ニ二番煮ヲ施シ約三十分間内外調味ヲナシ之レヲ再度蒸籠ニ取リ薄ク擴グ直ニ團扇ニテ風ヲ送り急激ニ

冷却セシメテ製品ニ光澤ヲ顯出セシメ製了セリ

製品

製品ハ其ノ數量第一號(網ノ分)十九貫六百五十匁第二號(鬼網ノ分)七貫三百五十匁合計二十七貫匁ニシテ之レガ品質ニ付イテハ後者寧ロ前者ヨリ外觀可良ニシテ其ノ形態稍々蛤ニ類似シ肉亦肥滿シ適當ナルヲ認メタリ
生産費 今製品生産費ニ付其ノ明細ヲ掲グレバ左ノ如シ

金三十圓五十四錢

網時雨煮

二十七貫匁

但一貫匁ニ付一圓十三錢一厘強

内譯

品目	數量	單價	計價	計金
醬油	四石七斗	一斗	三〇〇	一四、一〇〇
糖蜜	二斗五升	一升	二七〇	六、七五〇
水飴	二升五合	一升	六三〇	一、五七五
生薑	二、〇〇〇匁	一貫匁	五五〇	一、一〇〇
石炭	三、〇〇〇匁	一貫匁	一七五	、五二五
人夫	三〇〇斤	百斤	四六〇	一、三八〇
函	一五人	一人	二五〇	三、七五〇
雜費	一〇個	一ヶ	〇五五	、五五〇
				、八一〇

雜費

一貫匁

、〇三〇

、八一〇

製品處分

製品ハ前年度ノ品評ニヨリ荷造用函ニ蜜柑空函ヲ利用シ直ニ一函二貫五百匁詰トシ名古屋市中央市場同水産市場并ニ大阪市木津魚市場へ送致試賣シタルニ其ノ結果左ノ如シ

名古屋市中央市場

試賣價格

製品(第一號) 一貫匁

一圓乃至一圓十錢

同(第二號) 同

一圓四十錢

名古屋市水産市場

試賣價格

製品(第一號) 一貫匁

九十錢

同(第二號) 同

九十錢

大阪市木津魚市場賀集商店

試賣價格

製品(第一號) 一貫匁

一圓五錢

以上ノ如ク試賣ノ結果ハ時雨煮トシテハ原料真蛸ヨリ寧ロ鬼網ノ方適當ニシテ市場ノ氣受ヨク隨ツテ試賣價格モ亦遙カ上位ニアリテ中央市場ノ報告ニヨルモ前者ハ一貫匁ニ付一圓乃至一圓十錢ナルニ後者ハ一圓四十錢ニ賣却セラレタリ

輸取向蝦罐詰製造試驗

本縣下打瀬網ヲ以テ多獲セラル、赤蝦其他小蝦類ノ利用増進ヲ目的トシ前年度ニ於テ豫備的試驗ニ着手シタルモ僅カ

少數ノ製品ヲ試製シ得タルニ過ギズシテ到底海外市場へ實地試賣シ製法ノ適否如何ヨリ經濟上ニ亘ル諸關係ニ至ル迄詳細調査スルニ到ラザリシヲ以テ本年度ハ適當ナル原料ノ集收ニカメ且製造上ニ關シ種々研究ヲ加ヘ試賣製品十二函余ヲ試製シ直ニ橫濱市駒田商店ニ委託シテ米國市場へ送致試賣シ之レガ製品ニ對スル品評并ニ經濟上ニ亘ル諸事項等ニ關シ詳細調査ヲナセリ、今左ニ試賣ノ概況ヲ述ブベシ

原料

原料ハ大正五年十一月三十日ヨリ十二月六日迄四回ニ分チ知多郡豐濱町打瀬網ノ漁獲シタル小蝦類中可成休軀大ナル且新鮮ナルモノヲ選別購入シ試驗ヲ行ヘリ但シ今回使用シタル原料ノ種類ハあか及びさるわび類ヲ主トシ其ノ大サ体長二寸三分体高四分五厘体重二匁内外ノモノヲ普通トナセリ

製造方法

本年度ハ前述ノ如ク之レガ原料ヲ主トシテ知多郡豐濱町ヨリ購入シタルニヨリ生鮮ノマ、之レヲ本場へ運搬スル時ハ幾分其ノ鮮度ヲ失スルノ恐レアリシヲ以テ同地ニ於テ一旦洗滌煮熟等ヲ行ヒ籠内ニ薄ク立テ注意シテ本場へ搬入シ製造ヲ行ヒタリ

然シテ之レガ製造ノ順序并ニ方法等ニ付イテハ大体前年度ト同様ニシテ豫メ原料ハ大小二種ニ適別シ又蒸養及焙干ノ二法ニ分チ比較研究ヲ試ミタリ然シテ給熱ニ付イテハ前年來ノ試驗ノ結果ニ鑑ミ時日經過ニ伴ヒ往々生シ來ル肉質軟化ノ欠点ヲ防止センガタメ稍々變更ヲ加ヘ脱氣前ヲ沸湯中一時間トシ殺菌ヲ蒸籠内ニ於テ八封度乃至十封度ニ高メ一時間半乃至二時間施行シタリ又製了後ハ罐面ニ防錆ノタメ無色假漆ヲ塗布シ「レベル」ヲ貼付スルコトナク一函四打入トシ荷造ヲ施シタリ而シテ荷造函ハ縦一尺三寸五分横一尺一分深サ九寸(何レモ内法)厚八分ノ縦板ニテ製シ使用シタリ

製品

本年度試製試賣シタル製品ハ第一號四函第二號三函第三號三函并ニ第四號二函即チ合計十二函ニシテ其各種ニ對スル製法ノ相違スル点大要左ノ如シ

第一號	原料ニ大ナルモノヲ用ヒ蒸養法ヲ行ヒタルモノ
第二號	同 焙干法 同
第三號	同 小 蒸養法 同
第四號	同 焙干法 同

製品試賣成績

以上製品十二函ハ全部大正六年二月橫濱市長者町五丁目五十三番地合資會社駒田商店ニ委託シ米國市場へ試賣契約ヲ行ヒ之レガ彼地ニ於ケル品評并ニ賣行ノ狀況等ヲ調査セシニ同八月ニ至リ駒田商店ヨリ右結果ヲ報告シ來リタルヲ以テ左ニ其ノ成績ヲ掲ゲ併セテ經濟上ノ關係ニ付少シク述ブル處アラントス

蝦罐詰試賣成績

駒田商店へ在桑港北米貿易商會ヨリ本製品ニ對シ今回賣シタル品評并ニ試賣計算書左ノ如シ
同商會ヨリ駒田商店宛文面

去ル三月廿五日井出丸使委託販賣トシテ御積送相成候蝦罐詰(十二函)悉皆賣却濟ニ付別紙勘定書ノ通り貴店手取金貳百貳拾參圓〇九錢御查收相成度
右蝦罐詰ハ粒數肉質并ニ色合共上出來ニ御座候只製品中第四號ハ肉面ニ小サキ泡形ノ疹數多有之且色合非常ニ黒キモノ有之候

製品賣上計算書明細

第一號 四函	一一五〇換	四六〇〇
第二號 三函	一〇五〇換	三一五〇
第三號 三函	一一五〇換	三四五〇
第四號 二函	一〇五〇換	二一〇〇
計 一二函		一三三〇〇
諸掛費明細		
積込料并海上保険料		一九三
横濱桑港間運賃		七四九
税關貨物取扱費		五七
陸上持込費 (函ニ付五仙換)		六〇
北米貿易商會手数料 (試賣高一三三弗ニ對スル五分)		六六五
計		一七、八三
差引		一一五、一七
即チ邦貨換算高		二二三圓〇九錢 (五一弗八分ノ五換)
以上ハ北米貿易商會ヨリノ報告ナルガ尙駒田商店手数料其他差引計算セバ左ノ如シ		
駒田商店手数料 (精算書二二三圓〇九錢ニ對スル五分)		一一、一五〇
内地運賃		四、三九〇

再差引

以上

二〇七、五五〇

尙參考ノタメ右製品ニ對スル生産費ヲ示シ收支經濟關係ヲ掲グレバ大要左ノ如シ

試賣製品生産費

金百七拾五圓貳拾錢壹厘

蝦罐詰十二函

但一函ニ付拾四圓六拾錢

内詳

品目	數量	單價	價	計	金
蝦	一八〇貫	一貫	、五〇〇		九〇、〇〇〇
食鹽	一二貫	同	、二〇〇		二、四〇〇
酒	一封五	一枚	、八五〇		一、二七五
硫磺	一〇〇枚	一枚	、〇二五		二、五〇〇
木炭	二四貫	一貫	、一七〇		四、〇八〇
石炭	一、六〇〇斤	百斤	、六一五		九、八四〇
空罐	六〇〇ヶ	一ヶ	、〇六〇		三六、〇〇〇
半田	三二〇ヶ	百ヶ	、四四三		一、四一八
煤	一〇〇ヶ	同	、〇五〇		〇、五〇〇
計					一三三、〇〇〇

人夫賃	七二人	一人	、二五〇	一八、〇〇〇
假遣	二合五勺	一合	、一五五	、三八八
荷造費	一二函五	一函	、五〇〇	六、二五〇
雜費		一ケ	、〇〇五	三、〇〇〇

二八

備考 以上生産費中ニハ製品各種ノ検査用及見本用トシ半函分ヲ余分トシテ送付シタルヲ以テ合計十二函半分ヲ計上セリ然シテ原料蝦ノ相場ハ一貫匁五十錢トシ又諸材料ノ相場ハ製造當時ノ時價ヲ採用セリ、又副産物(皮殻等)ハ其ノ他ノ諸雜費ニ充ツルモノトシ生産費中ヨリ控除セズ

收支關係

今試賣精算高ト生産費トヲ比較シ其收支關係ヲ示サバ左ノ如シ

金貳百〇七圓五拾五錢	製品試賣精算高
金百七拾五圓貳拾錢壹厘	同 生産費
金參拾貳圓參拾四錢九厘	差引純利益金

試賣成績ニ基ク意見

今回北米貿易商會ヨリ齋シタル試賣報告中製品ノ品評ニ關シテハ其ノ粒數(大サ)肉質并ニ色合共ニ良好ナリトノ好結果ヲ得タリ只第四號製品中ニ稍々不良ノモノアリシヲ遺憾トス而テ右製品中肉面ニ小サキ泡形ノ疹アリシハ保存中肉ノ表面ニ磷酸石灰并ニ磷酸苦土鹽類ノ結晶生成セラレタルモノナルベク又色合ノ黒キハ焙干ノ際燃料ヨリ煙氣ノ發生

シタル結果ナリシヲ知レリ然シテ製品ハ全部軟化又ハ膨脹等ヲ來サズシテ試賣シ得タリ又收支關係ニ付イテハ右ニ記述シタルガ如ク豫想以上ノ高價ニ賣却セラレ之レニ要セル生産費ヲ控除シタル差引純利益ハ金參拾貳圓參拾四錢九厘即チ一函當金貳圓六拾九錢六厘ヲ得タリ然シテ右生産費中原料蝦ノ相場ハ一貫匁ニ付五拾錢ナリシモ少シク豊漁ノ時期ニ際シ原料ノ相場一貫匁三十錢乃至四十錢内外ヲ以テ求ムルハ易々タル事項ナルヲ以テ實際ノ生産費トシテハ遙ニ減低シ得ラルベク收支一層有利タルヤ明ナルベシ尙本原料ハ縣下ニ最モ豊富ナル産額ヲ有スルモノナルヲ以テ將來ニ於テ本事業ハ大ニ望ヲ囑スベキモノタルヤ蓋シ贅言ヲ要セザルベシ況ンヤ本品ハ米國ヲ初メ泰西市場ニ於テ最モ廣大ナル販路ヲ有スルニ於テオヤ

經節製造試驗

前年度ニ繼續シ試驗ヲ行フ計畫ナリシガ本年度ハ經漁況數十年稀有ノ不況ニ陥リ隨ツテ魚價亦昂騰シ適當ナル原料ヲ得ル能ハズシテ之レガ漁期ヲ了リ遂ニ試驗ノ目的ヲ達スルコトヲ得ザリキ

製造雜試驗

一、鮫油製造試驗

大正五年三月ヨリ四月ニ亘リ渥美半島沖合ニ於テ師崎篠島ヲ初メ其他縣下灘行漁業者ガ屢々体重凡ソ四五百貫匁ニ達スルラバざめ(方言ばかざめ)ヲ漁獲セルヲ以テ該魚利用法調査ノ一端トシ之レガ肝油採製法ニ付試驗ヲ行ヒシニヨリ左ニ其ノ概況ヲ述ブベシ

原料

本試験ニ供シタル原料ハ大正五年四月五日渥美郡伊良湖岬數里沖合ニテ篠島村漁業者ノ漁獲シタル体重凡ソ四百五十貫匁内外ノうばざめノ肝臟一尾分ニシテ此重量五十四貫匁ヲ有セリ

製 造 方 法

採油法 普通當業者ハ鮫肝油ノ採油法トシテハ多ク熬取法ヲ用フレモ直火式裝置ヲ以テハ製品ニ着色ヲ促シ又粘稠度ヲ増進セシムルノ欠点アルヲ以テ今回ハ「ゼラチン」釜ヲ利用シ蒸氣裝置ヲ以テ之レガ採油ヲ行ヒタリ即チ原料タル肝臟ハ豫メ細切シ之レヲ「ゼラチン」釜内ニ投入シ後此ノ内ニ水蒸氣ヲ直送シ油分ノ上面ニ分離浮上スルニ從ヒ絶エズ上方ノ「コック」ヨリ自然流出スル如クナシ凡ソ十時間加熱ヲ繼續シテ採油ヲ了リタリ而シテ尙釜中ニハ少量ノ殘滓存スルヲ以テ之レヲ取出シ充分壓搾シテ油分ヲ分離シテ殘粕ハ之レヲ席上ニ擴ゲ日乾シ肥料用ニ供シタリ
精製法 採收シタル油ハ尙此ノ内ニ多クノ不純物ヲ含有スルヲ以テ精製法ヲ施スノ要アリ精製法トシテハ「アルカリ」ヲ用フル法、酸ヲ用フル法、酸化劑又ハ還元劑ヲ用フル法粘土ヲ用フル法又ハ天日晒白ニヨル法等種々ノ方法アリト雖今回ハ特ニ右ノ如キ復雜ナル方法ヲ用ヒズ最モ簡單ナル水洗法ニヨリ之レヲ精製シタリ
採油量 全原料ヨリ合計八鐘(八斗)ノ肝油ヲ得タリ

製 品 試 賣 成 績

製了シタル油ハ一鐘分ヲ見本用並ニ試験用ニ供シ七鐘分全部ヲ横濱市岡野町横濱魚油株式會社へ試賣シタルニ一鐘當ニ圓三十七錢五厘ノ仕切ヲ得タルヲ以テ今此ノ結果ニ基キ收支關係ヲ掲ゲレバ左ノ如シ

金十九圓四角	鮫油及粕試賣高
内 譯	
一金十九圓	鮫油八鐘分 (一鐘分金二圓三十七錢五厘)

金十六圓	同上生産費
内 譯	

一金十圓	原 料 (肝 臟)	五十四貫匁
一金九十二錢	石 炭	二百斤
一金五十錢	人 夫	二人
一金二圓四十錢	荷 造 費	八鐘分
一金二圓	運 賃	
一金十八錢	雜 費	
金三圓四十錢	差 引 純 益 金	

一鐘當金四十二錢五厘

備考 概シテ鮫類ハ其ノ利用ノ途廣キモノナルヲ以テ今其ノ各部分ノ利用法ヲ左ニ示シ參考ニ供セン

- 一、肉 生肉ノ外たれ(鹽干品)又ハ蒲鉾竹輪等ノ材料トス
- 一、肝臟 油ヲ採製ス
- 一、鱈 鱈鱈又ハ推翅トス
- 一、軟骨 明骨又ハ鮫氷トナス
- 一、皮 鞣皮トシ又膠ノ材料トス
- 一、内臟骨其他 肥料等トス

二、王金魚罐詰製造試驗

本縣下ニ多産スル王金魚(方言コウナゴ)ハ從來主トシテ煮干品ニ製造シ又ハ僅ニ釜上品トシテ販出セラル、モノアルノミニテ其ノ用途極メテ狭ク殊ニ又一朝大漁ニ際會スルカ又ハ雨天等ニ遭遇セバ忽チ其ノ處置ニ窮シ貴重ナル原料ヲ空シク肥料ニ化製セシムルガ如キ場合尠カラズ隨ツテ價格モ亦暴落ヲ來シ往々一桶(一斗)金十七八錢ヲ稱スルニ到ルコトアリ、カクノ如キハ畢竟利用厚生未ダ完全ナラザルニ歸因スルモノニシテ大ニ研究ヲ要スベキ事項タリト認ムルヲ以テ本年四月之レガ利用ノ一法トシテ大和養罐詰製造試驗ヲ施行シ其ノ製法ノ適否、嗜好ノ程度並ニ販路ノ狀況等ニ付調査ヲナセリ

依ツテ左ニ試驗ノ概況ヲ述ブベシ

原料

試驗ニ供シタル原料ハ大正五年五月知多郡篠島村王金魚抄網漁業者ガ漁獲シタル体長平均三寸内外ノ中王金魚トス

製造方法

原料ハ煮干製造ノ際ト同様ニ一旦ハソリ釜中ニ於テ稀薄湯水ヲ以テ約十分間内外煮熟シ取上ゲ放冷シ更ニ別ノ釜中ニテ醬油四升水六升砂糖三百多ノ割ヲ以テ調製シタル調味液中ニテ同十分内外煮熟シ之レヲ直徑五寸高サ三寸八分ノ大型丸罐ニ正味三百多宛充填シ後之レニ醬油五升水五升砂糖三百多ノ割合ヲ以テ調製シ置キタル注入液約五勺宛ヲ注加シ蓋嵌封鐵ヲ施シ給熱セリ、而シテ給熱ハ罐型大ナルヲ以テ脱氣前ヲ二回ニ分チ行ヘリ即チ沸湯中ニ於テ三十分間宛給熱シ釜底双方ヨリ一回宛脱氣ヲ施シタリ殺菌ハ蒸罐内ニ於テ六封度二時間ヲ施シ製了シタリ

備考 今回試製シタルガ如キ大型ノ罐詰ノ給熱ニ付イテハ大ニ注意ヲ要スベキモノアルヲ以テ參考ノタメ左ニ少シク記サン

即チ大型罐詰給熱ニ際シテ脱氣前ハ可成其ノ溫度並ニ時間ノ程度ヲ減縮セシメ殺菌ニ於テ其ノ溫度ヲ高メ又ハ時間ヲ延長補給シ之レガ給熱ノ目的ヲ完全ナラシムルヲ適當ト認ムルモノナリ、然ラザレバ之レガタメ製了後自然ニ又ハ運搬等ニ際シ僅微ノ衝動ニ遭遇スルニ於テスラ急ニ罐面ニ凹陥部ヲ生シ隨ツテ鐵葉板又ハ封鐵部等ニ龜裂ヲ生ズル事アルベシ

製品

生産費 今回試製シタル製品ハ合計九十四個ニシテ其ノ生産費ヲ掲グレバ左ノ如シ

金二十一圓〇二錢一厘

但一罐ニ付二十二錢四厘弱

内評

品目	數量	單價	計價
王金魚	一〇桶	、二五〇	二、五〇〇
醬油	一二升五合	、二七〇	三、三七五
砂糖	七五〇匁	、一〇〇	、七五〇
空罐	九四個	、〇七〇	六、五八〇
半田鐵	一個	、四四三	、八八六
木炭	二〇〇匁	、一七〇	、一七〇
石炭	一、〇〇〇匁	、四六〇	一、八四〇

植化亞鉛水	一〇〇匁	〇五〇	〇五〇
人夫費	八人	二五〇	二〇〇〇
荷造費	八函	三〇〇	二〇〇〇
雜費	一函	〇〇五	四七〇

製品處分 本品ハ原料ニ王余魚ヲ利用シテ可成生産費ノ低廉ナル製品ヲ得ルヲ目的トシ之レガ販路ヲ主トシテ紡績製糸又ハ其他ノ大工場ニ於ケル職工賄用又ハ軍食用等ニ求メントシ試験ヲ施行シタルモノニシテ随ツテ容器モ可成大ナル罐ヲ使用シ且諸材料ノ使用ニ付イテモ可成節約シ生産費ノ低減ヲ計リタルモノトス
即チ製品ハ縣下主要ナル紡績並ニ製糸工場又ハ軍食製造所魚半商店等へ見本ヲ送致シ品評ヲ索メタル結果頗ル好評ヲ得全部東洋紡績株式會社並ニ魚半商店へ一個金三十錢ヲ以テ賣却處分シタリ而シテ尙東洋紡績會社等ヨリハ更ニ多數ノ注文ニ接シタルノ好況ヲ呈シタリ

製造科傳習生養成

將來水産製造業ニ從事セントスル縣下當業者ノ子弟ヲ募集シ六月一日ヨリ十一月三十日迄六ヶ月間斯業ニ關スル實技並ニ之レニ伴フ理論トヲ簡易切實ニ教授シタリ修了者ハ三名ニシテ其住所氏名左ノ如シ

- 豊橋市 船町 青木 淺治
- 渥美郡 福江町 石井 師市
- 知多郡 篠島村 古谷 温

養殖部

技手 徳久 三種

養魚池ノ修繕工事及ビ模様變

前年度十月八日暴風雨ノ爲メ當養魚池大破損ヲ來シタルヲ以テコレガ修繕工事及ビ第二號池模様變ノ必要起リタルヲ以テ區劃堤防築設工事ノ爲メ金壹萬五千參百九拾壹圓貳拾參錢ヲ支出シ本年度四月十六日工事ニ着手シ十月十六日漸ク竣工スルヲ得タリ施行セシ工事ノ梗概左ノ如シ

一、包圍堤外廓堤修繕工事ノ梗概

- 工費金壹萬壹千四百貳拾九圓八拾七錢
- (イ)起工事由 水害ノタメ一部決壊シ其他石積大部分崩壊セシニヨリ之ヲ修築ス
- (ロ)設計ノ大要 包圍堤中最モ波當リ強キ箇所ニハ浪返ヲ設ケ堤防ノ沈定セシモノヲ補ヒ外法中破損箇所ハ「コンクリート」裏詰ノ石積ヲ添へ築キシ内法ハ石積ノ不正タル最モ危險ノ箇所ニ人造石ノ添築ヲナシ其他必要ナル箇所ニハ「コンクリート」ノ目込ヲナシテ石積ヲ補強シ尙内外法長ノ整全ナラザル箇所ハ捨石ヲナス
- (ハ)工事明細 左ノ如シ

名稱	材料	長	合數量	單價	計金	摘要
表法石積	幡豆割石	五二〇	六五二 _二 三〇			圖面及計算表ノ通 扣(一尺二寸以上ニシテ根 石ハ特ニ大ナルモノ使用 切取内理區域内ニ散在スル モノ使用
裏詰	混凝土	内	六二二、三〇〇 一七〇、〇六	四、二〇	二、六一三、六六	
表法先捨石	石	内	五、六、七〇 二、三、三六 九七八、八五	二七、七六一、五七三、九九 二五、五四二、八九五、二一 一、〇〇	九七八、五〇	合端玄翁遣ヒ 平均一坪ニ八分在來石積間 隙ニ入念コンクリート突込 手間代
同上	割石		五二一、八 〇三、七	五〇 八、〇〇	二六〇、九〇 六六九、六〇	
裏法石積	人造石	延間 八三、〇	六一、五 _二 一三	一九、一一一、一六八、一九	九、〇五〇、六六	地方石ノ内硬質ノモノ壹個 二十貫匁以上
同面塗	小		二四六、五 _九	一、四三	三五三、〇七	
裏法先捨石	砂		九四、七	二、八〇	二六五、一六	地方産
切取内理	小礫		一〇〇、三	二、八〇	二八〇、八四	地方海濱産
合計	合計				二八〇、八四	

(二)仕様 左ノ如シ

- 一、本工事ニ使用スル「セメント」ハ農商務省規定ポトランドセメント試験方法ニ依リ本縣ニ於テ施行スル試験ニ合格シタルモノタルベシ
- 二、「コンクリート」及「モルタル」ニ使用スル砂ハ土氣ナク塵芥等少シモ混在セザルモノタルベシ
但内海々岸砂ヲ使用スルモ差支ナシ
- 三、「コンクリート」ニ使用スル砂利ハ各所定ノ大サニ篩ヒ分ケ土氣無ク塵芥等少シモ混在セザルモノタルベシ
但地方海岸産砂利ノ内硬質ノモノハ使用差支ナシ
- 四、「コンクリート」ノ練方ハ各其配合ニ基キ先ヅ砂「セメント」ヲ練臺上ニテ四回以上入念切返シ充分混合シタル後砂利ヲ加ヘ更ニ三回以上切返シ徐々ニ水ヲ加ヘ四回以上切返ヘスベシ
- 五、火山灰石灰ヲ配合スルモノハ先以テ火山灰石灰ト「セメント」トヲ充分相混和スル迄切返シ然ル後前項ノ如ク練上クベシ
- 六、「コンクリート」ハ施行ニ當リ必要ナル丈ノ分量ヲ練リ直チニ之レヲ使用シ決シテ練置ヲ爲スベカラズ

石積目込	混泥土	九三〇二四八 _二 一	合計
人夫	一、二四一	二二、一四	二七四、七六
小計	七四、〇	五〇	三七、二〇
合計			三二一、九五
			二、四三九、八七

計算表ノ通り
平均一坪ニ五寸遣ヒ
在來石積筋掃除ノ上入念コ
ンクリート詰込平一坪ニ參
分

- 七、外法石張ハ扣ヘ一尺二寸以上ヲ有スル蟠豆石ニシテ監督員ノ検査済モノヲ使用シテ合端積入念積立ツベシ而シテ根石ハ特大ナルモノヲ使用シ指定ノ根堀ヲ爲シ堀付ケ地盤岩石ノ場合ハ据リ能ク之ヲ切取ルベシ
- 八、同上裏詰「コンクリート」ハ石張裏ニ間隙無キ積入念詰込ミ築固ムルハ勿論在來存在スル石張ノ間隙ヘ充分ニ詰込ムベシ而シテ詰込ミ難キ箇所ハ石角ヲ破碎シ詰込ムベシ
但在來ノ石張裏ニ大ナル空隙ヲ存スルモノハ監督員ノ指揮ニ從ヒ海岸小砂利ヲ以テ之ヲ詰メ合端ハ「コンクリート」ヲ以テ填充シ決シテ在來石張ノ裏ニ空隙ヲ存セシムベカラズ
- 九、裏詰「コンクリート」ノ硬化スルマデハ藪ヲ以テ之ヲ覆ヒ波浪ノ爲メ洗ハル、事ナキ様充分手當ヲナシ日光ニ曝サルル部分ハ濕リタル藪若クハ藪ヲ以テ之レヲ覆フベシ
- 十、人造石練方ハ練臺一個練舟五個ヲ備ヘ練臺ニ於テ所定ノ配合ニ基キ石灰種土ヲ六回以上入念切返シ其色一樣ニ至リタル時第一ノ練舟ニ移シ徐々水ヲ加ヘ練合セ夫レヨリ第二ノ舟ニ移シ順次練合スベシ
- 十一、人造石ハ割合相互ノ間隔ヲ貳、參寸トシ練土ハ能ク築キ固メ裏面ハ在來存在スル石積ニ能ク密着セシメ其間隙ニハ入念練土ヲ突キ込ミ表面ハ石面ト一樣ニ築固ムベシ
- 十二、人造石石張ノ表面ハ一体ニ厚五分「セメントモルタル」ヲ塗ルベシ
- 十三、人造石ニ於ケル浪除ケ日除ケ等ハ表法「コンクリート」ニ準スベシ
- 十四、石積目込用「モルタル」ハ其施行ニ當リ必要ナル分量ツツ「コンクリート」練ニ準シ入念練合スベシ
- 十五、石積目込ヲ爲スニハ在來石積面ヲ能ク掃除シ合端石片等ヲ悉ク取除キ入念突キ詰メ若シ突込箇所ハ石角ヲ少シク破碎シ詰込ムベシ然シテ詰込ミタル部分ハ濕リタル藪ヲ以テ之ヲ被フベシ
- 十六、捨石ハ總テ樹立檢收スルモノトス

二、漏水留及區劃堤工事ノ梗概

工費金參千九百六拾壹圓參拾六錢
設計ノ大要 漏水留工事ハ二號池及三號池ノ周界堤防ニ高基線上八十八尺マデ粘土ノ添築ヲナシ表面ヲ混凝土塊ヲ以テ被覆ス

區劃堤ハ第二號池ヲ四個ニ分界スルモノニシテ高サ基線上九十尺トシ地方石々積トシ二號池樋管敷張下及側壁空隙ハ混凝土粘土填充

捕魚裝置ハ第二號池人造石樋ヲ延長シ水面扉及金網扉ヲ設ク、其他樋管ノ損所修理
明細 左ノ如シ

名稱	材料	長	徑末口厚	合數量	單價	計金	摘	要
二號池外池境堤	粘土	二九、九	一、二四	三七、一	四、八〇	一七八、〇八	上等方粘土ヲ使用シ圖面ノ通築立長平均二十九間九分ノ所陸岸石積取毀チ長一間埋込ミ	
漏水留	築固人夫	—	—	三七、一	五〇	一八、五五	方粘土間ニ間隙ナキ積入念突固メ立一坪ニ一人	
	床堀	二七、三	〇、六八	一八、六	一、二〇	二二、三二	圖面ノ通り	法先キ埋返シ不用土砂取捨トモ
	被覆混	二八、九	一九、〇	四、八	三三、九六	一五〇、九六	方一尺厚三寸ニ造リ馬踏及法面張立用干潮位下乾張リ同上目筋モルタル使用配合別表ノ通	
	職工	—	—	二七、五	一、〇〇	二七、五〇	コンクリート塊入念張立一坪同三分掛リ但シ目筋仕上共	

經濟試驗

既述ノ如ク本年度ハ修繕及ビ模機變工事ノ爲メ本年度ハ殆ント大部分養殖池ヲ使用スルヲ得ザリシヲ以テ記述スルニ足ル試驗ヲ實施スルヲ得ザリキ僅カニ第一號池及ビ第二號池ヲ利用シ粗放的ニ黑鯛鱸等ヲ養殖シテ收利ヲ計リタルニ過ギズ而シテソノ收支計算ハ左ノ如シ

大正五年度水産試驗場作業費受拂勘定表

受 入	
歳入 收入 濟額	金 參百拾六圓九拾八錢
全 未 收 入 額	金 一
運轉資本ニ屬スル現金ノ殘額	金 參 千 圓
總生産品ノ價格	金 參百拾六圓九拾八錢
總材料及素品ノ價格	金 參拾圓五拾貳錢
機機運轉用其他生産ノ爲メ要スル消耗品ノ價格	金 拾五圓七拾貳錢五厘
總 備 品 ノ 價 格	金 八拾九圓〇七錢九厘
計金參千七百六拾九圓貳拾八錢四厘	
拂 出	
歳出 支出 濟額	金 百九拾八圓九拾九錢

全 支 出 未 濟 額	金 一 〇 〇 〇 〇
運 轉 資 本 額	金 參 千 圓
賣拂代金收入濟物品ノ價格	金 參百拾六圓九拾八錢
賣拂代金收入未濟既出物品價格	金 一
消耗シタル材料素品ノ價格	金 參拾圓五拾貳錢
全機機運轉用其他生産ノ爲メ要スル消耗品ノ價格	金 拾五圓七拾貳錢五厘
損失ニ歸シタル物品ノ價格	金 參拾壹圓六拾貳錢八厘
損 失 金	金 一
計金參千五百九拾參圓八拾四錢參厘	
差引過剩金百七拾五圓四拾四錢壹厘	

大正五年度作業費受拂勘定表

(參考)

受 入	
歳入 收入 濟額	三 一 六、九 八 〇
養殖物賣拂代金	三 一 六、九 八 〇
歳入 未 收 入 額	—
運轉資本ニ屬スル現金ノ殘額	三、〇〇〇、〇〇〇

總生産品ノ價格	三一六、九八〇
養殖物賣拂代金	三一六、九八〇
總材料及素品ノ價格	三〇、五二〇
買入レタル魚兒ノ價格	一、三〇〇
買入レタル餌料ノ價格	二九、二二〇
機械運轉用其他生産ノ爲メ要スル消耗品ノ價格	一五、七二五
買入レタル消耗品ノ價格	一五、五七〇
前年度ヨリ受入レタル消耗品ノ價格	、一五五
總備品ノ價格	八九、〇七九
計	三、七六九、二八四
歲出 支出 濟額	一九八、九九〇
備 人 給	一二〇、五五〇
消 耗 品 費	一五、五七〇
原 料 費	三〇、五二〇
備 品 費	二一、五〇〇
雜 費	
修 繕 費	一〇、八五〇

歲出 支出 未濟額	三、五九三、八四三
運 轉 資 本 額	三、〇〇〇、〇〇〇
賣拂代金收入濟物品ノ價格	三、一六、九八〇
養殖物賣拂代金	三、一六、九八〇
賣拂代金收入未濟既出物品ノ價格	三〇、五二〇
消耗シタル材料素品ノ價格	一、三〇〇
購入放養シタル魚兒價格	二九、二二〇
消耗シタル餌料ノ價格	一五、七二五
全機械運轉用其他生産ノ爲メ要スル消耗品ノ價格	一五、七二五
消耗シタル消耗品ノ價格	一五、七二五
損失ニ歸シタル物品ノ價格	三一、六二八
損 失	
計	三、五九三、八四三
差引過剩金	一七五、四四一
備 品	五七、四五一
利 益 金	一一七、九九〇

但シ大正五年度水産試験場基金ニ編入スベキ分

國庫補助試驗

本年度ハ修繕工事ノ爲メ所期ノ業績ヲ得ルニ至ラザリシモ試驗セシ魚種ハ黑鯛まだひ、ちだひ、車蝦、穴子、ノ五種ニ及ビタリ次年度ニアラザレバ明確ナル成績ヲ得ルニ至ラザルモ聊カ記述スル所アラントス
試驗ノ目的ハ黑鯛眞鯛血鯛車蝦穴子ヲ池中養殖スルニ方リソノ歩留増肉率養水變化ノ及ボス影響疾病外敵ノ豫防及ビ驅除法ヲ研究スルニアリタリ

一、黑鯛養成試驗

黑鯛ニ關スル既往ノ養殖上ノ知見ハ種魚十五匁平均ノモノヲ坪當リ百八十二匁ノ割合ニ放養シ四月ヨリ十月ニ至ル七ヶ月間飼育シ乾鰯生雜魚ヲ餌料トシテ投餌料坪當リ總量二貫ヲ給スレバ收納量ハ放養量ノ約三倍ナルヲ普通トシ黑鯛ハ水温ノ騰昂ニハ寧ロ耐ユル力大ナルモ低温ニ對シテハ寒傷ヲ受ケ易シ而シテ本年度試驗施行ノ目的ハ養成ニ於ケル既往ノ知見ハ單一一回ノ試驗ニ止マリ且ツ試驗數量モ多カラズ爲メニ未ダ以テ確實ナルモノト見做スヲ得ザルガ故ニ這回ハ精確ナル試驗方法ニヨリテソノ確實ナル成績ヲ得ントスルノ目的ヲ以テ種苗放養量等略右ニ準テ施行セリ即チ試驗池ハ第二號「イ」(面積六百四十坪)種苗ハ平均十二匁ノモノニシテ放養數量ハ百二十五貫五百六十匁即チ坪當リ百九拾六匁強トシ投餌總量坪當リ二貫二十匁トシ主トシテ干鰯トシ打瀬網ニ羅レル生雜魚ヲ混ズ試驗開始ハ大正五年九月一日ニシテ終止ハ大正六年三月二日即チ六ヶ月間ノ試驗ヲ實施セリ
試驗ノ成績ノ梗概ヲ舉グレバ尾數歩留ハ七割五分ニシテ増肉率ハ放養時十二匁ノモノ三十五匁乃至六十匁トナリ收納量ハ放養量ノ約二倍半ナリ養水變化ノ及ボス影響ハ試驗時間ニ於ケル最高水温ハ三十五度最低水温ハ(一)二度ナリシガ何レモ被害ヲ蒙ルニ至ラザリキ當養魚池ハ淡水ノ注水毫モナカリシ爲メ比重變化ニツキ研究スルノ機會ナカリキ

室内試驗ニ於ケル試驗成績ニ徵スルニ可ナリ低鹹度ノ海水ニモ尙ホヨク堪エ得ルガ如シ疾病害敵ト認ムルモノナカリキ要スルニ這回試驗ノ結果ハ既往ノ知見ト略ボ同一ノ結果ナリキ即チ既往ノ知見ハ略首肯スルニ足ルモノナルヲ實証シ得タリ

二、眞鯛養成試驗

眞鯛ニ關スル既往ノ知見ハ眞鯛平均十五匁強ノモノ血鯛平均十五匁弱ノモノヲ混合養殖ノ場合ニ於テハ九月下旬乃至十一月中旬ノ間ニ二百十九貫五百八十五匁乃至三百五十八匁ノ水面ニ他魚ト混合放養シ翌年一月中旬マデニ干鰯百三十九貫六百匁ヲ投與セシニ零度ノ低温ニ遭遇スルヤ凍死スルモノ甚ダ多ク收納量ハ漸ク百一貫八百匁ヲ得ルニ過ギザリシトイフニ止マル依テ本年度ノ試驗施行方法及ビ其目的ハ既往ノ知見ハ一時の蓄養ニ於ケルモノ然モ難然他種ト混養シタルモノナレバ本年度ハ本種ノミヲ單養シ且ツ養成ヲ目的トシテ試驗セリ種苗ハ十五匁内外ノモノニシテ九月下旬乃至十月中旬ニ亘リテ放養量ハ百〇五貫試驗地ハ第二號池「ロ」(面積百七十五坪)「ハ」(面積百八十五坪)「ニ」(面積百七十坪)合計五百三十坪ナリ放養時捕獲時ノ不注意ノタメ斃死スルモノ約四割アリタルヲ以テ畢竟眞ノ放養量ハ六十二貫ナレバ坪當リ百十七匁弱ナリ投餌總量ハ坪當リ一貫九十八匁トシ餌料ハ黑鯛ト同一ナリ試驗期間ハ尠クトヒ一ヶ年半ノ豫定ナリシモ大正六年一、二月ノ嚴冬水温(一二度)ノ爲メ大部分凍死セシヲ以テ己ムヲ得ズ大正六年二月上旬休止セリ試驗ノ成績ハ歩留ハ前説ノ如ク種苗放養時ニ於テ約四割ノ歩減ヲ見タリコレ捕獲運搬法ノ拙ナリシタメナリ這ハ今後大ニ研究ヲ重スルノ必要アリ而シテ放養後五六月目即チ大正六年一、二月頃ハ數十年來ニナキ酷寒ニシテ水温(一)二度ノ低溫度數日連續セシコト屢々ナリシタメ凍死シテ浮上スルモノ甚ダ多ク大部分ヲ失フニ至レルヲ以テ水開門ヲ開放シテ殘存セルモノハ水深深ク比較的氣温ノ低下ノタメ影響ヲ蒙ルコト少ナキ第一號池ニ移轉セシメタルヲ以テ正確ナル歩留數量等ヲ舉グルヲ得ザルハ遺憾ナリ今疆イテ斃死數量ヨリ推算スレバ恐ラク放養量ノ二割

ノ歩留ナランカト思惟セラルル這回ノ試験ノ經過右ノ如キ有様ナリシタメ増肉率ニツキテモ亦明確ナルヲ得ルニ至ラズ
 只ダ放養時ノ種苗ハ平均十五匁ナリシモノガ一、二月ノ酷暑ニ際シテ斃死セシモノニ就キテ平均体量ヲ檢スルニ三十
 匁乃至三十七匁ナリシヲ以テ見レバ一尾ノ増肉量ハ十五匁乃至二十二匁位ト見テ大差ナカランカ然レドモ肥滿セルモ
 ノニアラズシテ市場ニ上スモ一見養魚場物トシテ商人ニ觀別ナレ亦肉味劣レリ養水變化ノ及ボス影響ニツキテハ這回
 ノ試験ノ結果ニヨレバ真鯛ハ水深四五尺ノ地ニ於テ水温ノ昂騰ハ三〇度マデハソノ生活ニ影響ヲ及ボスモノニアラザ
 ルガ如シ低溫ハ一、二度ニ下ルコト八時間ニ及ベバ凍死ヲ來タスガ如シ比重變化ニ關スルコトハ池中ニ於テハ經驗ス
 ルヲ得ザリシコト黒鯛ト同斷ナリ疾病害敵ト認ムルモノナカリキ酷暑ニ際シソノ寒傷ヲ防止スル目的ヲ以テ粗朶海藻
 ヲ沈降セシメタルニ充分ナル効果ヲ認メ得ザリキ

三、血 調 養 成 試 験

本種ニ關スル既往ノ知見ハ頗ル貧弱ナリ島根縣水産試験場本場及營業者ノ經驗ヲ綜合推考スルニ血調ハ真鯛ヨリモ尙
 一層水温低下ニ對スル抵抗力弱シ歩留放養量等ニツキテハ明確ノ實驗ナシ本年度初該種ニ關スル試験ノ計劃ハ相當ノ
 數量ノ血調ヲ單養シテ以テ徹底的ニ研究ヲ試ミン管ナリシガ生憎種苗ヲ得ルコト能ハザリシタメ血調種苗購入豫定金
 額ヲ真鯛種苗ニ拂向ケタルタメ所期ノ目的ヲ遂達スルヲ得ザリシヲ頗ル遺憾トスルモ真鯛種苗ニ混在セシ血調ニツキ
 テ觀察セシ結果ハ左ノ如シ
 血調ノ歩留ハ該試験ノ事情右ノ如キタメ之ヲ知ルヲ得ザリキ増肉率ハ放養附ノ体重平均十一、二匁ナリシガ一二月ノ
 酷暑ニ凍死浮上セシモノニツキテ檢スルニ平均二十二、三匁即チ一尾十一二匁ノ増肉ヲナセリ然レドモ一般ニ瘦タリ
 養水變化ノ及ボス影響ハ既往ノ知見ト同様ニシテ水温低下ニ對スル抵抗力ハ真鯛ニ比シ頗ル弱ク酷暑ノ時ハ真鯛ニ先
 チテ斃死スルヲ以テモ知ラル然レドモ果シテ幾何ノ水温迄生活ニ堪エ得ルヤハ今之ヲ明言シ得ルノ程度ニ研究完カラ

ズ疾病害敵ノ豫防法及ビ驅除法ニツキテハ真鯛ト同斷ナリ

四、車 蝦 蓄 養 試 験

車蝦養殖ニ關スル既了ノ知見ヲ摘録スレバ先ヅ養成ニツキテハ春期一寸乃至二三寸ノ小海老(〇、六匁位)ヲ坪當リ七
 百匁乃至一貫三百匁放養シ生餌ヲ最成長時期ニハ放養ノ二十二三分ノ一ノ量ヲ一日ノ投餌量トシ飼育スレバ翌年二、
 三月マデニハ体長四寸乃至五寸体重五匁ニ成長シ歩留ハ尾數ニ於テ五割重量ニ於テ九割二分前後トス而シテ蓄養ニ於
 テハ九、十月頃十匁内外ノ車蝦ヲ坪當リ六七百匁ニ放養シ生餌料ハ坪當リ總量四百匁乃至一貫三百匁ノ割合ニ投餌シ
 翌年二、三月ニ至レバ數量ニ於テ六七割ノ歩留リナルヲ普通トス
 本年度ハ右養成及ビ蓄養ノ二種ニ亘リテ試験スベキ等ノ所養池修繕工事漸ク大正五年十月六日竣工セシ有様ナルヲ以
 テ春期種蝦ヲ放養スルヲ要スル養成試験ハ實施スルヲ得ザリキ蓄養試験ハ十月中旬種蝦十二、三匁平均ノ優良ナルモ
 ノヲ選ビテ十三貫二百匁ヲ第三號池(面積七十八坪)ニ放養ス即チ坪當リ放養量百六十九匁強ニシテ餌料ハ打瀬網ニ
 罹ル生雜魚ニシテ投餌量ハ略ボ右ニ準ズ十一月及ビ翌年一、三月ニ亘リテ十貫六百十九匁ヲ收納ス歩留約八割ナリト
 ス

五、穴 子 養 成 試 験

穴子ニツキテハ未ダ曾テ十分ノ設備ノ下ニ飼育ヲ試ミタルモノアラズ只僅カニ先年本縣實飯郡東海養魚會社ニ於テ僅
 少ノモノニツキテ試験モシコトアリシガ夏期出水ノ際雨水注人シ爲メニ鹹度劇變シテ斃死セシメタリト云フ知見アル
 ノミナリ當養魚池ハ比重ノ變化ヲ來タスベキ事情ナキヲ以テコノ点ニツキテハ顧慮スル所ナク大規模ニコレガ飼育試
 験ヲ計劃シ相當種苗ヲ購入セシモ未ダ收納セザルヲ以テソノ成績ヲ茲ニ記載シ難シ次年度ニ於テ明瞭スベシ

六、養水濃度ノ變化ガ鹹水魚ニ及ボス影響ニ關スル研究ノ梗概

2 般魚族ニ養水ノ濃度ノ變化ガ及ボス影響ニツキテノ研究ハ先ヅ淡水魚ニツキテハ P. Bert(1871), R. Florentine (1899) ノ「トゲウオ」ニ關スル研究 Garrey (1916) ノ *Nephtropis leuonnis* ニ關スル研究ヲ主ナルモノトス
海水魚ニ對シテハ Summer (1905, 1907) ノ *Tonkoy* ニ關スル研究 Scott ノ *Fundulus heteroclitus* ニ關スル研究ヲ主ナルモノトス而シテ右四研究中 Garrey ノ研究セシ魚類ヲ除キテハ多クハ半鹹水ニモヨク適應シ得ルノ魚種ナルハ注意スベキ事項ナリ
海水魚ニ對スル右研究ニヨリテ得ラレタル知見ノ要領ハ

- (一) 海水魚ヲ淡水ニ放テバ平均五% 体重ヲ増加スルコト
 - (二) 右ノ場合一三% 体重増加ヲ來タセルモノハ六時間ノ後ニハ体側ヲ水平ニシ一、二時間ノ后ニハ斃死スルコト
 - (三) 斯ノ如ク体重ノ劇増ヲナスニ當リテハ血球其者ニハ何等異狀ナキモ血液ハ稀薄トナルガ爲メ一時單位容積内ニ於テハ血球數ヲ減少スルモ逐次血球増加シ常態ニ復飯ス
 - (四) 海水魚ヲ濃厚ナル海水ニ放養スレバ血液濃厚トナリ体重減少ス(普通海水ヨリ一、〇四五ノ海水ニ放養スレバ七、五%ヲ減ズ)
- 而シテ本場養殖部が大正二年車蝦蟇二種ニツキテ耐水試験ヲ試ミシ結果ハ左ノ如シ
- | 水族名 | 投入水ノ比重 | 経過時間 | 状態 |
|-----|--------|-------|---|
| 淡水魚 | 淡水 | 七時間 | 横臥斃ル普通海水ヘ移養スレバ三時間ニシテ恢復ス淡水ノタメ横臥セルモノモ腿ノ運動スル間ナレバ海水ニ移養セバ回復ス |
| | | 七晝夜 | 變調ナシ |
| 蝦蟇 | 淡水 | (16) | 七晝夜 |
| | | (195) | 四晝夜 |

まごがれい 淡水 魚体ヨリ粘液ヲ分泌ス
 いしがれい 淡水 魚体ヨリ粘液ヲ分泌ス

以上ハ既往知見ノ梗概ナルガ本年度ハ穴子石鰯ヲ主トシ其他數種ノ海水魚ニ就キ研究セリ其結果ヲ摘録スレバ左ノ如シ

(一) 穴子 常棲水 (一、〇三三) ヨリ各種高鹹度海水ニ (一、〇〇五) 梯級ヲナス以下全シ

逐次一時間毎ニ漸移スレバ一、〇二五ニ至レバ快游ヲ止メテ靜止シ一、〇三〇ニ至レバ稍々飛躍シ一、〇三五ニ至レバ苦悶シテ相反喘シ一、〇四〇ニ至レバ移入後約五十分ニシテ斃死ス而シテ体重ハ各種高鹹度ニ移スニ從テ約一〇%宛遞減シ呼吸數亦減少ス

常棲水ヨリ (一、〇二三) 各種低鹹度海水ニ一時間毎ニ逐次漸移スレバ一、〇一〇マデハ快游ヲ止メテ靜止スルモ一、〇〇五ニ至レバ氣力衰ヘ一、〇〇〇ニ至レバ移入後二時半ニシテ斃死ス而シテ体重及ビ呼吸回數ハ前者ト同様ニ遞減ス鹹度劇變ニ關スル研究ノ結果ハ區々ニシテ統一スル所アラズ

(二) 石鰯 常棲水 (一、〇二三) ヨリ各種ノ高鹹度海水ニ逐次一時間毎ニ漸移スレバ一、〇三五マデハ異狀ヲ認メザルモ一、〇四〇ニ至レバ苦悶シテ飛躍スツイデ氣力衰フ而シテ体重(各鹹度毎ニ約一〇%宛)呼吸數共ニ著シク減少ス

常棲水 (一、〇二三) ヨリ各種低鹹度ニ逐次一時間毎ニ漸移スレバ一、〇〇〇ニ至レバ稍々氣力衰ヘタルヲ見ル而シテ呼吸數ハ約半數マデニ著シク減少スルモ体重ニハ變化ナシ

劇變ニ關スル研究ノ結果ハ曇記大正二年度業績ト異ナル所ナク低鹹度、海水若クハ淡水中ニ於テモ体重増加セズ
 追テ右二種ノ外數種ニツキテ實驗セル業績ヲ綜合シテ考フルニ前記 Summer, Soote 兩氏ノ研究成績ノ如ク濃度高キ養
 水ニ於テハ体重減少シ濃度低キ養水ニ於テハ体重増加スト云フ所論ハ半鹹水魚類乃至半鹹水ニ適應シ得ルノ性能ヲ有ス
 ル魚類ニ就テコレヲ實証シ得ルモ純鹹水魚ニ於テハ必ズシモシカアラザルガ如シ例ハハ鰯ノ如キニ於テハ最モ明確ニ
 Summer 氏等ノ所説ニ契合スルモ穴子其他ノ純鹹水魚ハ体重ノ増減ト養水濃度トハ何等ノ統一セル關係ヲ有セザルガ
 如シ

養殖委託試驗

本試驗ハ曇キニ施行セル養殖適地調査ノ結果養殖業普及ノ目的ヲ以テ漁業組合ニ委託シ當部指揮監督ノ下ニ實施セル
 モノナリ

一、蛤 養殖委託試驗

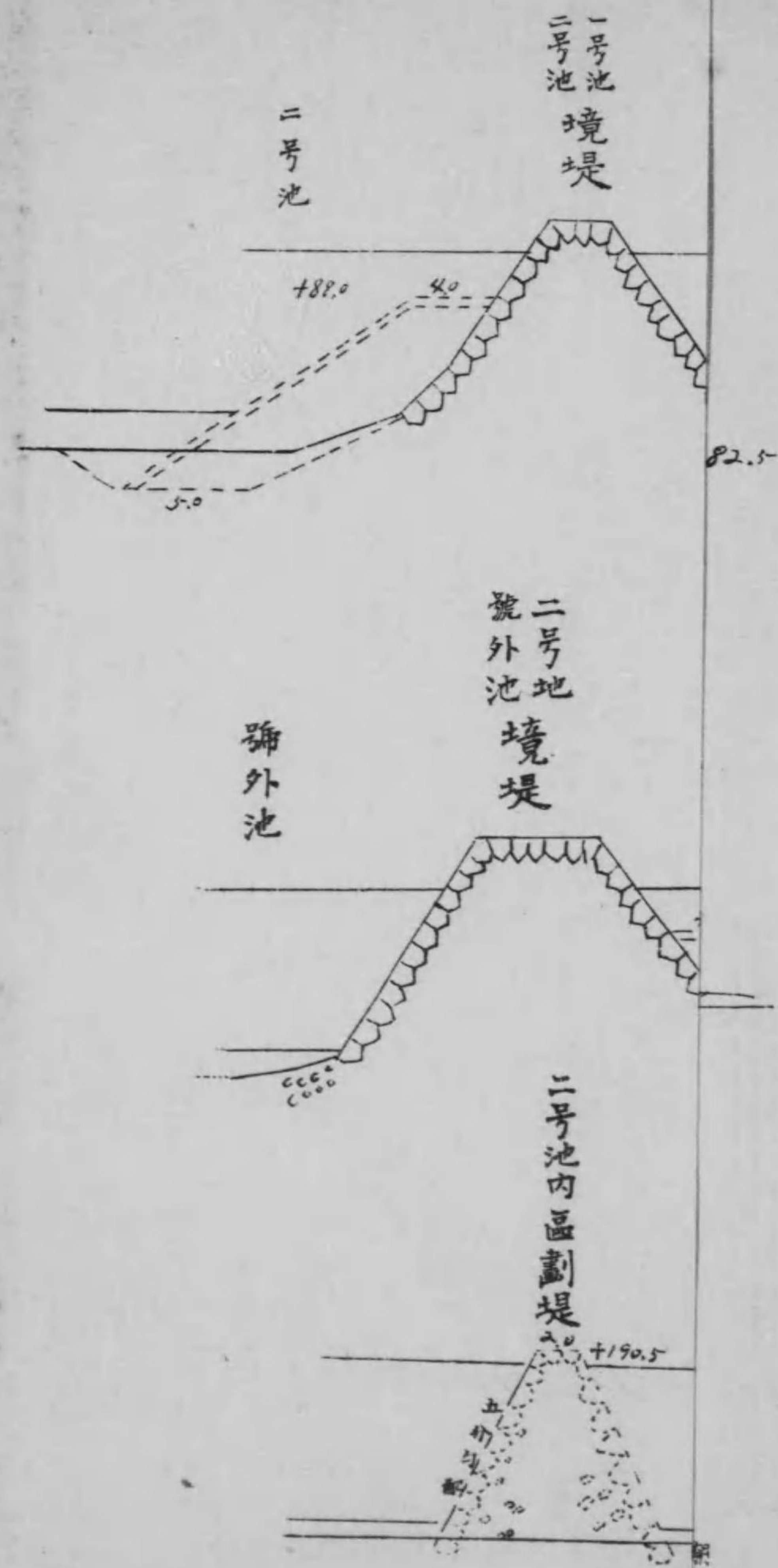
三河灣ニ於テハ蛤ノ發生ハ豐饒ナルモノノ成育ハ頗ル不良ニシテ古來蛤稚苗ノ供給ヲ專トシ取テ養成ニ指ヲ染メザル
 ナリ同灣ハ注入河川鮮少ニシテ假令矢作川豐川ノ如キ存ズルト雖灣ノ面積ニ比シテ水量多シトイフベカラズ豊川ノ如
 キハ特ニ水量少シ流域短小ナルノ恨アリ然レドモ平時ハ比較的淡水ノ影響ヲ蒙ルコト多ク底質亦該貝ノ養成ニ好適ノ
 箇所ヲ選定セバ小規模ナガラモ蛤ノ養成ヲ計ルヲ得ベシトノ豫想ノ下ニ本試驗ヲ實施セリ
 選定シタル養殖場所ハ渥美郡西濱六條漁業組合甲貸付場ノ沖合三百間ノ箇所ニシテ約八百坪ノ廣表ヲ有シ水深ハ干
 潮時六尺豊川尻ニ當ルト雖出水ノ時ニ於テ激甚ノ影響ヲ蒙ル懼ナキ所ニシテ附近ニハ藻場アルモ該地所ハ砂泥混合ニ
 シテ養殖ニ好適ト認メラル放養種苗ハ一升ノ容積内ニ四百二十五箇乃至六百七拾箇平均五百〇七個(一升掛スリキリ

ノ個數ナリ山盛トスレバ平均五百六拾八個トナル)ヲ算スルモノニシテ一個体ハ大ナルモノハ殼長一寸五厘殼高一寸
 三分五厘小ナルモノハ殼長五分殼高三分五厘ナリ放養月日ハ第一回ハ五月三十一日五石六斗第二回ハ六月十三日四石
 四斗放養數ヲ合計ハ十石ナリ成績ハ七月十九日ノ検査ニヨレバ三、四割以上斃死セルヲ認メ九月二十七日ニ於テハ
 斃死ノ増加セルヲ確メ十二月十七日ニ於テハ生員ノ存在スルモノナカリキ以上ノ成績ヲ考フルニ水質ノ不適及ビ害敵
 ノ被害多カリシ爲メ斃死スルモノ多ク遂ニ生キ残りシモノハ他ニ移動セシモノ、如シ要スルニ本試驗ハ本年ハ失敗ニ
 了レリ次年度更ラニ好適ノ箇所ヲ選ビテ標識ヲ施シ移動ノ狀況ヲ察シ得ルノ方法ヲ探ルト共ニ水質ニ關スル研究ヲモ
 進メントス

二、板浦牡蠣養殖委託試驗

三河灣内ニハ板浦牡蠣ノ産額古來ヨリ相當ノ額ニ達シ居タリシガ近年濫獲ノ結果著クタンノ蕃殖ヲ害シタルヲ以テ米
 國ニ於ケル粗放の養殖方法ニ倣ヒコレガ蕃殖ヲ計ラシト欲シ寶飯郡東部水産組合ニ委託シテ試驗セリ、試驗場ハ寶飯
 郡前芝村大字梅敷御所川河口ヨリ同郡大塚村中央ニ至ル沿海ニシテ海岸ヨリ約二十五町ヲ距タル沖合東西二百間南北
 約一里ノ面積ヲ有シ古來蠍瀬ト稱シ海底ノ礫石ニ板浦ノ附着蕃殖スルヲ以テ著ハル蠍苗附着材料トシテハ石煉瓦瓦ノ
 破片ヲ其儘若クハ石灰乳ニ浸シタルモノヲ用ヒタリ投入年月及ビ其數量ハ左ノ如シ

二月廿七日	石(一個五百瓦乃至二貫外)	三百六十石
二月十日	石瓦取混セ小舟四艘分	
二月十七日		
二月十八日		
二月廿一日	全 右四艘分	



漏水留及二號池内區劃堤設計圖

縮尺百分之一

二月廿四日	全	右二艘分
三月三日	全	右四艘分
三月四日	全	右四艘分
三月廿一日	瓦片一艘分石五十石	

本試験ノ成績ハ未ダ不明ナリ明年度ニ於テ分明スベシ

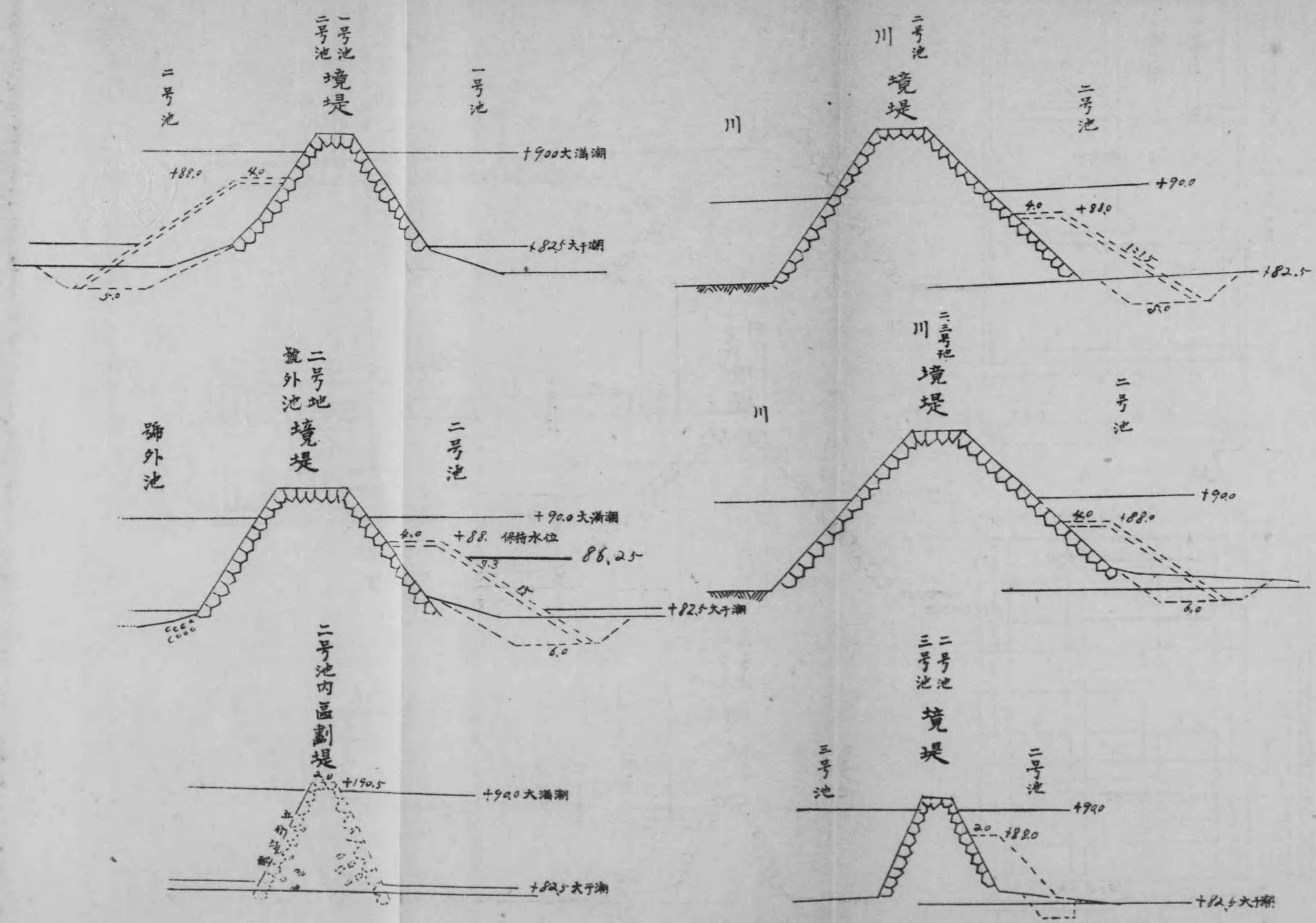
養殖科傳習生養成

本年度ノ養殖科傳習生入學者ハ四名ナリシガ卒業業者ハ左ノ二名ナリキ傳習期間ハ四月一日ヨリ十月三十日マデニシテ養殖部ニ於テ一班ノ學理及ビ鹹水養殖ノ實習ニ服セシメ淡水養殖ノ研究ノ爲メニハ幡豆郡一色村石原養魚場、渥美郡高師村神野新田養魚會社ニ於テ實習セシメ、海苔蛤等ノ養殖ニツキテハ六條潟組合其他ニツキテ實地研究セシメタリ卒業生ハ各々民間養魚場ヨリ招聘スル所トナレリ

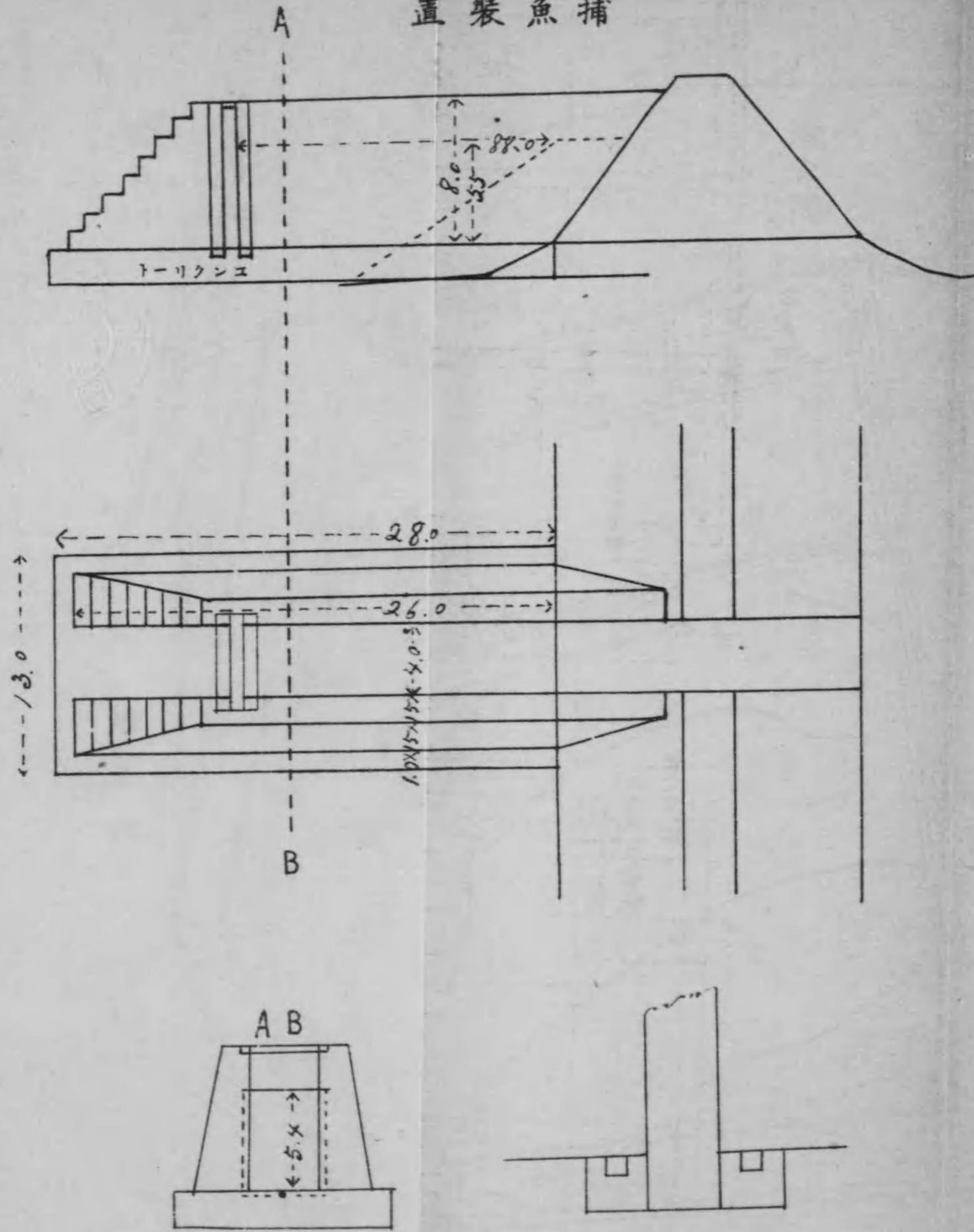
- 愛知郡下之一色村 森 公 平 (鬼ヶ崎養魚場勤務)
- 東加茂郡旭村 松 井 磯 吉 (熱田養魚場勤務)

漏水留及二號池内區劃堤設計圖

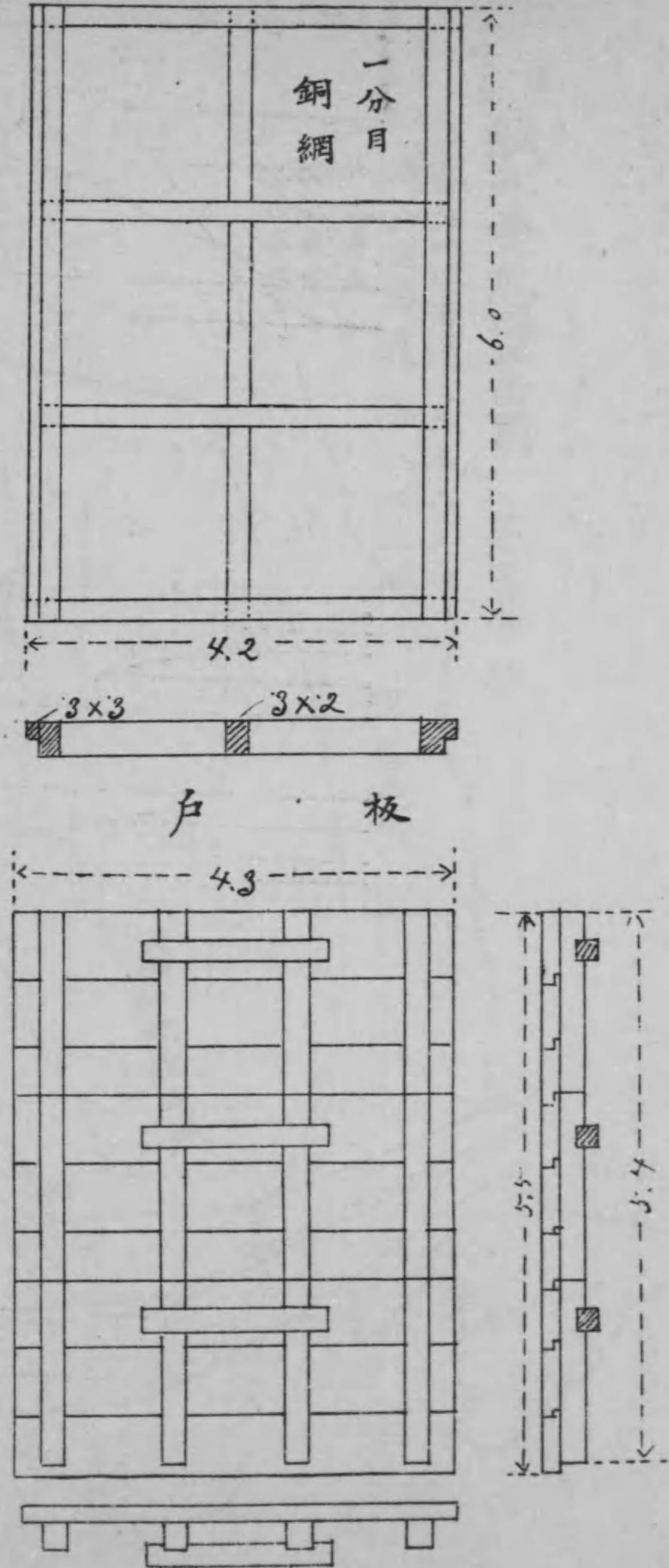
縮尺百分之一



捕魚裝置



金網戸



捕魚裝置設計圖

縮尺貳拾分之一

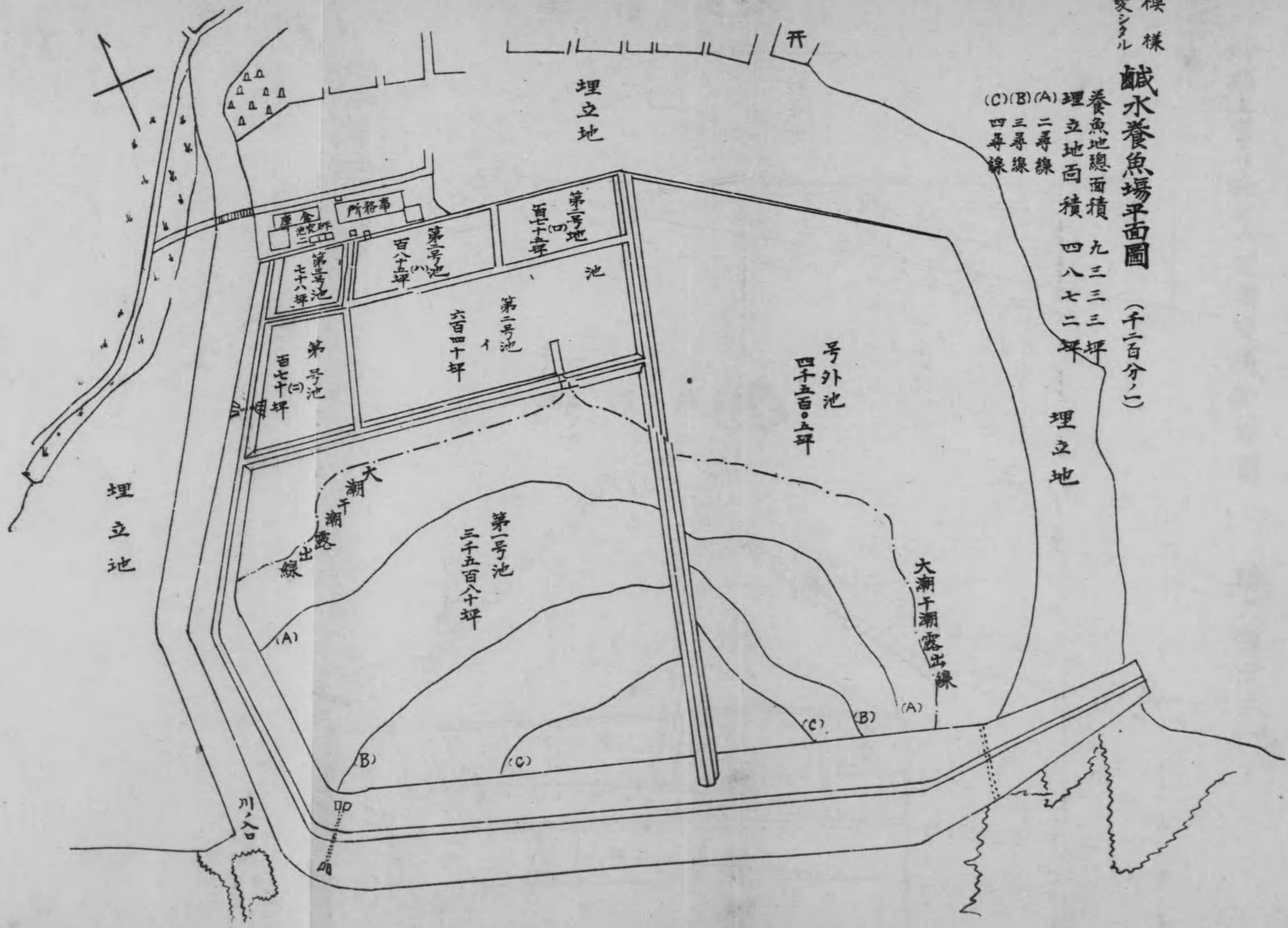
模
樣
變
シ
ル

鹹水養魚場平面圖

(千二百分一)

養魚地總面積 九三三三坪
埋立地面積 四八七二坪

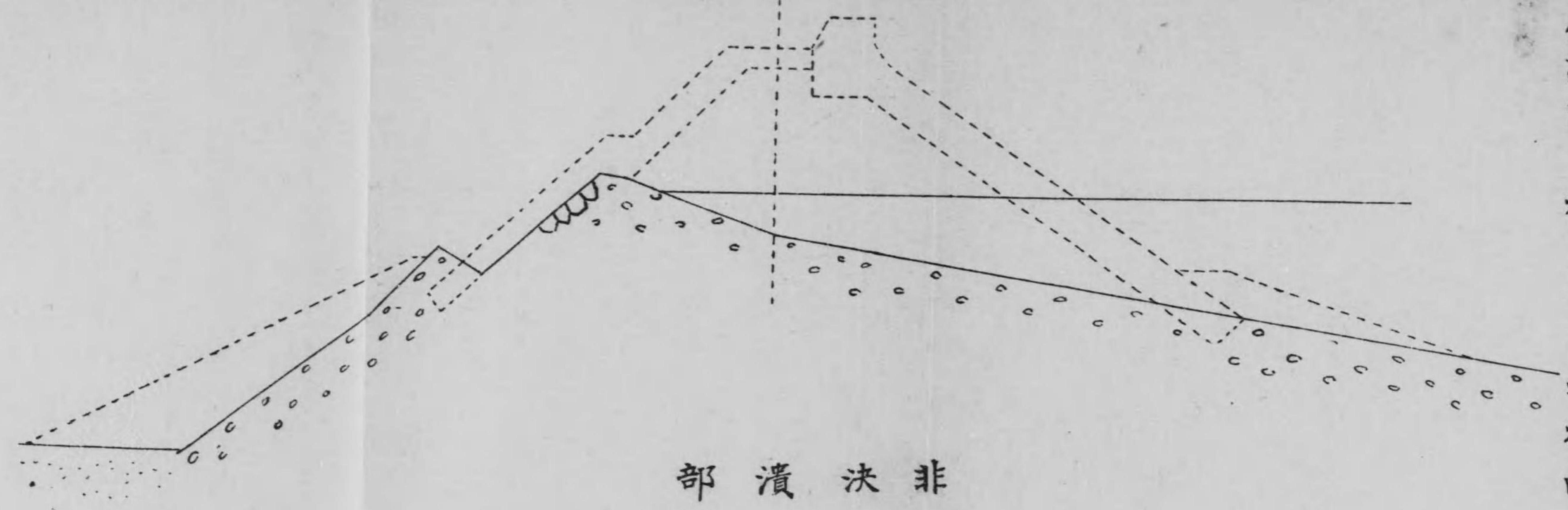
(A) 二尋線
(B) 三尋線
(C) 四尋線



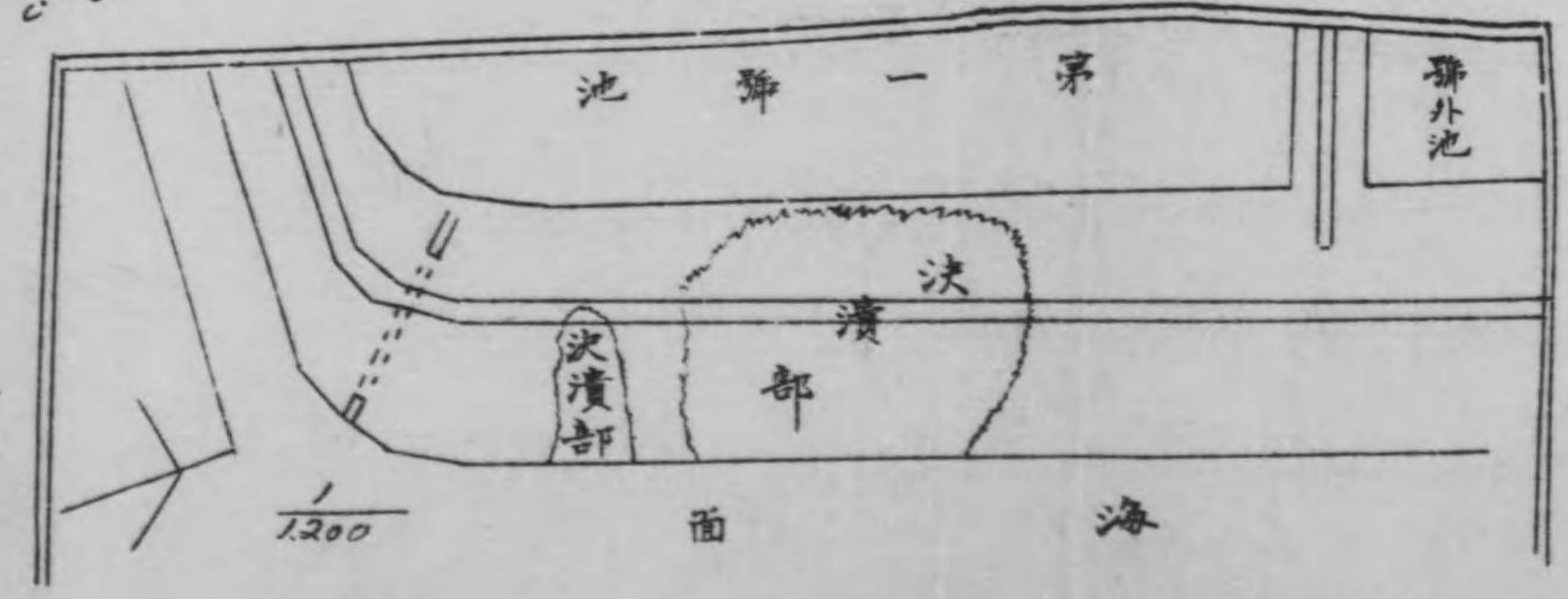
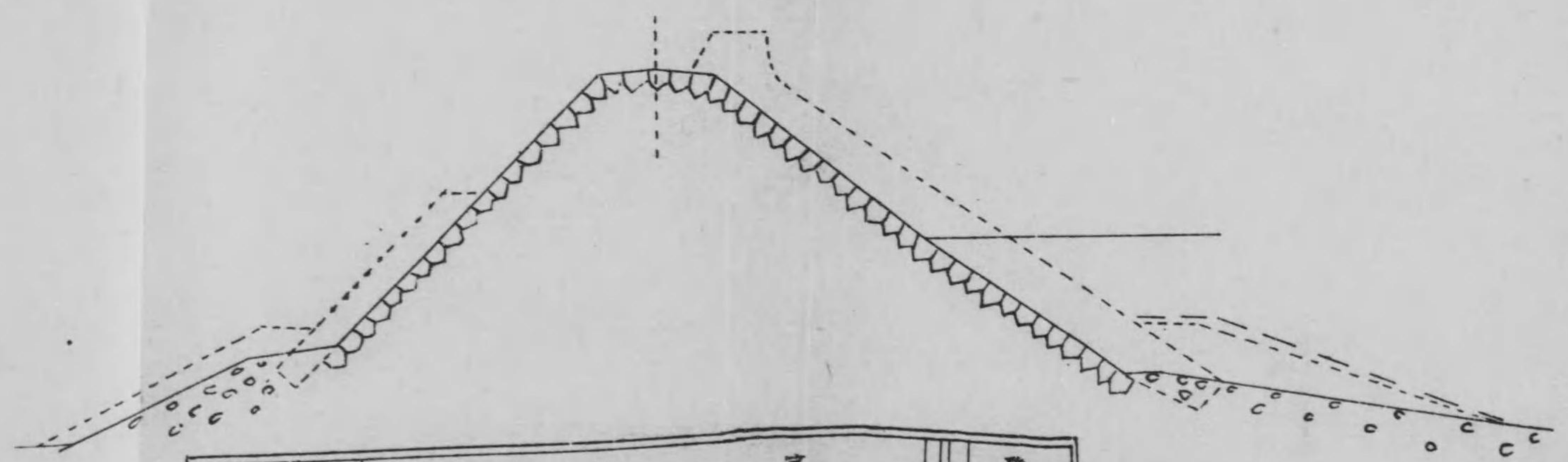
修繕工事ヲ施セル包圍堤横断面圖

縮尺百分之一

決潰部



非決潰部



調 査 部

一 打 瀬 網 漁 業 調 査

水産局ヨリ指定ノ方法ニ從ヒ伊勢三河灣ニ出船シ本漁業ニ關スル諸般ノ調査ヲ遂グ結果ハ其都度水産局ニ報告セリ

一 漁 業 基 本 調 査

本年度八九月頃ヨリ伊勢河三河灣ニ來游セル鰯ニ關シ農商務省水産講習所ノ指定方法ニ基キ魚群ノ來去漁獲ノ狀況洄游ノ模様食餌ノ種類雌雄ノ割合漁場ノ海況等ニ就テ調査ヲ施行セリ
 而シテ毎月既定海面ニ於ケル基本海洋觀測ハ月三回調査研究ヲ遂グ其都度水産講習所ニ報告シ又伊勢海三河灣ニ於ケル縱斷線橫斷線ノ海洋觀測ヲ三回施行セリ尙本縣内海ノ海洋觀測ハ渥美郡赤羽根村沖既定点ニ於テ毎月一回施行シ以テ海洋ト魚族トノ關係ニ就テ之ガ資料ヲ蒐集セリ

一 伊 勢 海 漁 業 基 本 調 査 衣

大正四年一月ヨリ十二月ニ至ル内灣既定ノ場所ニ於ケル海洋觀測調査結果左ノ如シ
 (觀測位置篠島南端西徼北一哩三分一)

一月分

調査月日		一日午後二時	十一日午後二時	二十一日午後二時
月	齡	25.4	6.9	16.9
	天氣	曇	曇	晴
	雲量	10	9	6
	風向	南	北	西
象	風力	1	2	1
	氣溫	10.0	7.2	10.0
	水溫	海面 11.0 海底 13.8	海面 11.2 海底 11.1	海面 10.1 海底 10.2
海	標準比重	" 1.02248 " 1.02267	" 1.0228 " 1.02281	" 1.02245 " 1.02268
	水色	4	4	4
	透明度	二十四尺	二十二尺	二十五尺
	潮時	滿	干	干
况	潮向	南	南	北
	潮速	緩	緩	急
浮游生物	種上	CHA EUC	PLE CAL	OIT BAC
	種下	PLE NOC	BAC EUC	EUC CAL
採量集	上	0.6c.c.	0.5c.c.	0.5c.c.
	下	0.4c.c.	0.3c.c.	0.2c.c.
採水深	上	海面	海面	海面
	下	13 尋	13 尋	13 尋
採場底質	水深	13 尋	13 尋	13 尋
	底質	砂 泥	砂 泥	砂 泥
本年一月平均	水溫	11.2	1.02253	0.4c.c.
平年一月	差	9.2	1.02422	13.8c.c.
	高	2.0	低 0.00169	少 13.4c.c.
漁况	當月本島近海漁況ハなまこ・たこ・きす・あいなめ・くじめ・わが・ひさで・こうなご等ニシテなまこ・たこハ豊漁こうなごハ平漁他ハ少漁ナリ			

浮游生物屬名略字表

略字	屬名
ACT	Actioptychus
AST	Asterionella
BAC	Bacillaria
CAL	Calanus
CEB	Ceratium
CHA	Chaetoceras
CHE	Cheatoleler
COP	Copepoda
COR	Corethron
COS	Coscinodiscus
CRO	Crostolen
CYT	Cyttarocyclus
DIC	Dictyocha
EUC	Eucampia
MIC	Microsetella
NOC	Noctiluca
NOU	Nouplius
OIT	Oithona
PLE	Plerosigma
RHI	Rhizosolenia
THA	Thalassiothrix

三 月 分

調 査 月 日	一日午後二時	十五日午後二時	二十二日午後二時
月 齡	26.5	11.0	16.0
氣 象	天 氣	晴	晴
	雲 量	4	4
	風 向	北 西 微 西	西
	風 力	2	3
海 水	水 温	海 面 9.8 海 底 10.0	海 面 10.3 海 底 10.7
	標準比重	" 1.02260 " 1.02267	" 1.02177 " 1.02179
水 色	水 色	4	3
	透 明 度	二 十 三 尺	二 十 五 尺
	潮 時	干 九 合 目	滿 八 合 目
	潮 向	南	東
浮 游 生 物	種 類	上 CHA COS	COS CHA
	種 類	下 CHA PLE	CHA COS
採 集	採 量	上 7.0 cc. 下 5.0 cc.	8.0 cc. 3. cc.
	採 水	上 海 面	海 面
	採 深	下 13 尋	13 尋
	採 場	水 深 13 尋	13 尋
本 年 三 月 平 均	砂 泥 比	砂 泥 比	砂 泥 比
	水 温	10.6	1.02359
平 年 三 月	水 温	10.3	1.02314
	差	高 0.3	低 0.00155
漁 况	當月本島近海漁況ハこうなど、なまこ、くじめ、あいなめ、たい、わが、かれい、いか等ニシテこうなど、なまこ、ハ豊漁いかハ平漁他ハ少漁ナリ		

二 月 分

調 査 月 日	一日午後二時	日午後二時	二十一日午後二時
月 齡	26.9		17.5
氣 象	天 氣	曇	曇
	雲 量	10	10
	風 向	北	北
	風 力	2	2
海 水	水 温	海 面 10.2 海 底 11.6	欠
	標準比重	" 1.02331 " 1.02408	" 1.0259 " 1.0234
水 色	水 色	3	4
	透 明 度	二 十 一 尺	二 十 二 尺
	潮 時	滿 八 合 目	干 八 合 目
	潮 向	北	南
浮 游 生 物	種 類	上 COS THA	測 COR CHA
	種 類	下 CAL COR	THA EUC
採 集	採 量	上 0.6 cc. 下 0.3 cc.	5.0 cc. 6.0 cc.
	採 水	上 海 面	海 面
	採 深	下 13 尋	13 尋
	採 場	水 深 13 尋	13 尋
本 年 二 月 平 均	砂 泥 比	砂 泥 比	砂 泥 比
	水 温	10.0	1.02366
平 年 二 月	水 温	9.1	1.02387
	差	高 .9	低 0.00021
漁 况	當月本島近海漁況ハこうなど、なまこ、わがあいなめ、くじめ、たこ、ぼら、かれい等ニシテこうなど、なまこハ豊漁わが、あいなめハ平漁他ハ少漁ナリ		

五 月 分

調 査 月 日		一 日 午 後 二 時	十 一 日 午 後 二 時	二 十 一 日 午 後 二 時
月 齡		28.4	8.9	18.9
氣 象	天 氣	快	晴	曇
	曇 量	2	6	10
	風 向	—	南 微 東	南 微 東
	風 力	0	2	2
海 象	氣 温	21.0	19.2	19.1
	水 温	海 面 16.7 海 底 16.8	海 面 17.0 海 底 17.4	海 面 18.0 海 底 17.3
	標 準 比 重	" 1.02287 " 1.02270	" 1.02410 " 1.02383	" 1.02280 " 1.02353
	水 色	4	3	3
况	透 明 度	二 十 五 尺	二 十 七 尺	二 十 五 尺
	潮 時	滿 五 合 目	滿 九 合 目	滿 四 合 目
	潮 向	北 々 東	南	北
	潮 速	急	緩	急
浮 游 生 物	種 類	BAC EUC	CER EUC	MIC BAC
	種 類	MIC CHA	MIC BAC	MIC OIT
採 集 物	採 量	上 5.0 c.c. 下 4.0 c.c.	上 7.0 c.c. 下 4.0 c.c.	上 8.0 c.c. 下 5.0 c.c.
	採 水 集 深	上 海 面 下 13 尋	上 海 面 下 13 尋	上 海 面 下 13 尋
	採 場 集 底 質	13 尋 砂 泥 13 尋 水 温	13 尋 砂 泥 比 重	13 尋 砂 泥 浮 量
	本 年 五 月 平 均	17.2	1.02331	5.5 c.c.
平 年 五 月 差		17.3	1.02363	11.0 c.c.
		低 0.1	低 0.00032	少 5.5 c.c.
漁 况	當 月 本 島 近 海 漁 況 ハ 可 成 績 無 一 様 々 ナリ 漁 獲 少 少 ナリ			

四 月 分

調 査 月 日		一 日 午 後 二 時	十 一 日 午 後 二 時	二 十 四 日 午 後 二 時
月 齡		23.0	8.4	18.4
氣 象	天 氣	曇	曇	曇
	曇 量	10	10	10
	風 向	北 西	西	西
	風 力	2	2	2
海 象	氣 温	13.0	15.2	15.2
	水 温	海 面 10.1 海 底 0.2	海 面 16.1 海 底 15.0	海 面 16.1 海 底 15.0
	標 準 比 重	" 1.02257 " 1.02258	" 1.02291 " 1.02381	" 1.02291 " 1.02381
	水 色	3	4	4
况	透 明 度	二 十 四 尺	二 十 五 尺	二 十 五 尺
	潮 時	滿 三 合 目	干 三 合 目	干 二 合 目
	潮 向	北	南	南 々 西
	潮 速	緩	緩	緩
浮 游 生 物	種 類	THA CHA	THA BAC	BAC EUC
	種 類	THA BAC	EUC PLE	DIC NOC
採 集 物	採 量	上 6.0 c.c. 下 2.0 c.c.	上 8.0 c.c. 下 5.0 c.c.	上 12.0 c.c. 下 7.0 c.c.
	採 水 集 深	上 海 面 下 13 尋	上 海 面 下 13 尋	上 海 面 下 13 尋
	採 場 集 底 質	13 尋 砂 泥 13 尋 水 温	13 尋 砂 泥 比 重	13 尋 砂 泥 浮 量
	本 年 四 月 平 均	13.8	1.02310	6.7 c.c.
平 年 四 月 差		13.6	1.02382	13.6 c.c.
		高 0.2	低 0.00082	少 6.9 c.c.
漁 况	當 月 本 島 近 海 漁 況 ハ 可 成 績 無 一 様 々 ナリ 漁 獲 少 少 ナリ			

七 月 分

調 査 月 日		三日午後二時	十一日午後二時	二十一日午後二時
氣 象	月 齡	2.7	10.7	20.7
	天 氣	曇	曇	曇
	雲 量	10	10	9
	風 向	西	西	南 微 東
	風 力	1	1	2
海 水	温	海面 22.4 海底 20.4	海面 23.0 海底 21.0	海面 25.2 海底 20.5
	標準比重	" 1.02410 " 1.02480	" 1.01610 " 1.02430	" 1.02331 " 1.02433
況	水 色	3	3	4
	透明度	十 三 尺	三 十 尺	二 十 三 尺
	潮 時	干 九 合 目	滿 八 合 目	干 五 合 目
	潮 速	西 緩	北 東 急	南 急
浮 游 生 物	種 類	上 CHA CER	CHA CAL	THA NAS
	種 類	下 CRO CER	CRO CER	CHA CER
物 集	探量	上 6.0 c.c. 下 8.0 c.c.	7.0 c.c. 9.0 c.c.	0.4 c.c. 0.1 c.c.
	探水深	上 海面 下 13 尋	海面 13 尋	海面 13 尋
	探場水深	13 尋	13 尋	13 尋
	集	砂 泥 水 温	砂 泥 比 重	砂 泥 量
	本年七月平均	22.1	1.02282	5.1 c.c.
平 年 七 月	23.3	1.02290	13.8 c.c.	
差	低 1.2	低 0.00008	少 8.7 c.c.	
漁 况	當月本島近海漁況ハいさぎ・かれい・いか・わび・くろ だい・あいなめ・たこ・あじ・こち・きす等ニシテいさ ぎ・かれい・くろだいハ平漁キスハ少漁ナリ			

六 月 分

調 査 月 日		一日午後二時	十一日午後二時	二十一日午後二時
氣 象	月 齡	0.3	10.3	20.3
	天 氣	晴	晴	曇
	雲 量	4	4	1.0
	風 向	南	南	—
	風 力	2	2	0
海 水	温	海面 22.2 海底 19.2	海面 23.2 海底 20.2	海面 24.7 海底 21.5
	標準比重	" 1.02407 " 1.02333	" 1.01963 " 1.02120	" 1.01556 " 1.02293
況	水 色	3	3	3
	透明度	二 十 五 尺	二 十 四 尺	十 五 尺
	潮 時	滿 三 合 目	干 九 合 目	干 六 合 目
	潮 速	北 急	南 緩	南 急
浮 游 生 物	種 類	上 CER CPO	COP COR	CER CHA
	種 類	下 COP NOU	CHA NOU	CHA CER
物 集	探量	上 40 c.c. 下 6.0 c.c.	5.0 c.c. 7.0 c.c.	20.0 c.c. 23.0 c.c.
	探水深	上 海面 下 13 尋	海面 13 尋	海面 13 尋
	探場水深	13 尋	13 尋	13 尋
	集	砂 泥 水 温	砂 泥 比 重	砂 泥 量
	本年六月平均	21.8	1.02112	10.8 c.c.
平 年 六 月	20.3	1.02303	3.7 c.c.	
差	高 1.5	低 0.00190	多 7.1 c.c.	
漁 况	當月本島近海漁況ハかれい・こち・あじ・いさぎ・たこ あいなめ・えび・きす等ニシテかれい・こち・あじ・い さぎハ豐漁たこ・あいなめ・えびハ平漁他ハ少漁ナリ			

九 月 分

調 査 月 日		一日午後二時	十二日午後二時	二十一日午後二時
月	齡	3.4	14.4	23.4
氣 象	天 氣	晴	曇	晴
	雲 量	2	10	3
	風 向	南 西	西	南
象	風 力	1	2	2
	氣 温	29.2	25.0	28.9
	水 温	海 面 30.5 海 底 27.5	海 面 26.0 海 底 23.0	海 面 26.3 海 底 26.2
海	標準比重	" 1.02150 " 1.02255	" 1.02400 " 1.02553	" 1.02119 " 1.02315
	水 色	3	3	3
	透 明 度	十 五 尺	十 八 尺	二 十 八 尺
况	潮 時	滿 一 合 目	滿 三 合 目	干 二 合 目
	潮 向	北	南 西	南
	潮 速	緩	急	緩
浮 游 生 物	種 類	上 CHA EUC	COP CHA	BAC RHI
	下 CER RHI	COP CHA	RHI PLE	
採 集	上	5.0 cc.	7.0 cc.	27.0 cc.
	下	7.0 cc.	4.0 cc.	4.0 cc.
探 水	上	海 面	海 面	海 面
	下	13 尋	13 尋	13 尋
探 場	水深	14 尋	13 尋	13 尋
	底質	砂 泥	砂 泥	砂 泥
本 年 九 月 平 均	水 温	26.2	1.02343	0.7 cc.
	比 重	25.6	1.02229	23.9 cc.
平 年 九 月 差	高	0.6	高 0.00114	少 23.3 cc.
	漁 况	當月本島近海漁況ハかれい・たい・きす・たこ・及び等ニシテたい・たこハ豊漁他ハ何レモ平漁ナリ		

八 月 分

調 査 月 日		三日午後二時	十二日午後二時	二十一日午後二時
月	齡	4.0	13.0	22.0
氣 象	天 氣	快	雨	雨
	雲 量	2	9	10
	風 向	南 微 東	南 東	南 西
象	風 力	2	2	1
	氣 温	28.6	25.4	27.5
	水 温	海 面 29.0 海 底 23.7	海 面 26.4 海 底 25.5	海 面 26.5 海 底 25.8
海	標準比重	" 1.02233 " 1.02404	" 1.02430 " 1.02483	" 1.02227 " 1.02280
	水 色	4	3	3
	透 明 度	二 十 七 尺	十 七 尺	十 九 尺
况	潮 時	干 七 合 目	滿 三 合 目	干 二 合 目
	潮 向	南	北	南
	潮 速	急	急	緩
浮 游 生 物	種 類	上 THA NAS	RHI CAS	CHA RHI
	下 CHA OIT	CAL RHI	CHA MIC	
採 集	上	0.7 cc.	0.7 cc.	1.2 cc.
	下	0.5 cc.	0.1 cc.	0.7 cc.
探 水	上	海 面	海 面	海 面
	下	13 尋	13 尋	13 尋
探 場	水深	13 尋	13 尋	13 尋
	底質	砂 泥	砂 泥	砂 泥
本 年 八 月 平 均	水 温	26.2	1.02343	0.7 cc.
	比 重	25.6	1.02296	20.6 cc.
平 年 八 月 差	高	0.6	高 1.00047	少 19.9 cc.
	漁 况	當月本島近海漁況ハさば・あじ・いさぎ・くろだい・きす・すすき等ニシテさば・あじハ豊漁他ハ何レモ平漁ナリ		

十一月分

調査月日		四日午後二時	十二日午後二時	二十一日午後二時
氣象	月齡	8.3	16.3	25.3
	天雲量	曇	曇	曇
	風向	北	北々西	北々東
	風力	1	2	2
海	水温	海面 18.4 海底 20.0	海面 18.0 海底 15.5	海面 15.8 海底 17.4
	標準比重	" 1.02243 " 1.02446	" 1.02021 " 1.02154	" 1.02198 " 1.02262
況	水色	3	3	3
	透明度	二十二尺	十八尺	二十四尺
	潮時	干一合目	滿一合目	滿九合目
	潮速	南緩	北緩	北微東緩
浮游生物	種上	COS RHI	COS CER	ACT CYT
	種下	CHA COS	COS RHI	THA CHA
採集	採量上	3.0 c.c.	5.0 c.c.	44.0 c.c.
	採量下	2.0 c.c.	2.0 c.c.	28.0 c.c.
採集深	採水面上	海面	海面	海面
	採水深处	12 尋	12 尋	13 尋
採集底質	採場水深	13 尋	13 尋	13 尋
	採集底質	砂 泥	砂 泥	砂 泥
本年十一月平均	水温	18.0	1.02221	14.0 c.c.
	標準比重	18.6	1.02378	5.6 c.c.
平年十一月差	低	0.6	低 0.00157	多 8.4 c.c.
	漁況	當月本島近海漁況ハかれい、たこ、こち、すすき、あじ、きす、あじ、くじめ、いわし、さより等ニシテかれい、たこ、こちハ豊漁スゞき、あじ、きす、あじ、いわしハ平漁他ハ少漁ナリ		

十月分

調査月日		二日午後二時	十一日午後二時	二十二日午後二時
氣象	月齡	4.8	13.8	24.8
	天雲量	雨	快	曇
	風向	南	南西	西
	風力	1	1	2
海	水温	海面 21.8 海底 21.7	海面 22.1 海底 21.7	海面 20.8 海底 21.4
	標準比重	" 1.02453 " 1.02555	" 1.02315 " 1.02417	" 1.02180 " 1.02175
況	水色	5	5	3
	透明度	二十尺	二十尺	二十六尺
	潮時	干八合目	干三合目	滿八合目
	潮速	南緩	南急	北微東緩
浮游生物	種上	CER EUC	COS COP	ACT COS
	種下	EUC AST	EUC COP	CHA OIT
採集	採量上	5.0 c.c.	4.0 c.c.	17.0 c.c.
	採量下	3.0 c.c.	2.0 c.c.	8.0 c.c.
採集深	採水面上	海面	海面	海面
	採水深处	12 尋	12 尋	13 尋
採集底質	採場水深	13 尋	13 尋	13 尋
	採集底質	砂 泥	砂 泥	砂 泥
本年十月平均	水温	21.6	1.02349	6.5 c.c.
	標準比重	22.2	1.02230	10.2 c.c.
平年十月差	低	0.6	高 0.00119	少 3.7 c.c.
	漁況	當月本島近海漁況ハたこ、あじ、うなぎ、くろだい、いなだ、こち、ひらめ等ニシテたこ、あじ、うなぎ、かれいハ大漁くじめ、くろだいハ平漁他ハ少漁ナリ		

十二月分

調査月日		一日午後二時	十三日午後二時	二十一日午後二時
調 査 月 日	齡	5.8	17.8	26.8
	天 氣	曇	晴	快
	雲 量	10	5	2
	風 向	北々東	北西	北西
	風 力	2	2	2
象	氣 温	11.5	13.2	11.8
	水 温	海面 16.5 海底 17.0	海面 15.6 海底 16.5	海面 10.6 海底 15.5
海	標 準 比 重	" 1.02266 " 1.02311	" 1.02312 " 1.02367	" 1.02316 " 1.02350
	水 色	3	3	3
	透 明 度	二十二尺 干六合目	二十二尺 干九合目	二十三尺 滿五合目
况	潮 潮	南 緩	南 緩	北 急
	種 類	CHA ACT	CHA EUC	CHA EUC
浮 游 生 物	種 類	NOC EUC	AST NOC	NOC MIC
	採 集	上 13.0 c.c. 下 6.0 c.c.	上 8.0 c.c. 下 3.0 c.c.	上 15.0 c.c. 下 7.0 c.c.
物	採 水	上 海面	上 海面	上 海面
	集 深	下 13 尋	下 13 尋	下 13 尋
	採 場	水深 13 尋	水深 13 尋	水深 13 尋
	集 底	砂 泥 水 温	砂 泥 比 重	砂 泥 量
本年十二月平均		15.3	1.02320	8.7 c.c.
平年十二月		13.6	1.02388	4.9 c.c.
差		高 1.7	低 0.0068	多 3.8 c.c.
漁 况		當月本島近海漁況ハたこ、ゑび、こち、きす、あいなめ いわし、さより、いなだ等ニシテたこ、ゑびハ豐漁こち きす、あいなめ、いわし、いなだハ平漁他ハ少漁ナリ		

本年度養殖部ニ於テ實施セシ講習講話ハ左ノ如シ

講習講話

開催月日	町村名	講話ノ題目	開催ノ場所
自九月十一日午前八時 至同日正午	寺津村	養蠶、養海苔	劇場
自九月十一日午後一時 至同日午後六時	一色村	養海苔、養蠶	同
自九月十二日午前八時 至同日正午	吉田村	養海苔	同
自九月十二日午後一時 至同日午後六時	幡豆村	養海苔	同
自九月十三日午前八時 至同日正午	佐久島村	養海鼠	小學校
自九月十二日午後五時 至同日午後十時	吉田村	養海苔	劇場

一、幡豆郡長ノ申請ニヨルモノ

二、幡豆郡吉田村漁業組合ノ申請ニヨルモノ

朝鮮海ニ於ケル縣下出漁者ノ狀況

本籍地郡市別表 (大正六年三月調査)

技 手 中 北 部

計	渥美郡	碧海郡	海部郡	知多郡	幡豆郡	寶飯郡	郡本市籍別地	漁業ノ種類		船根據地名別數別	別移住船通漁數ノ
								總船數	漁業者數		
八七	一	三	六	二四	二七	二七	總船數 二七隻	漁業者數 七〇人	家族數 三一人	打瀬二七	別移住船通漁數ノ 一七〇
二二三	二	五	一四	六〇	八二	七〇	二七隻	七〇人	三一	打瀬二七	一七〇
九八	一	六	一〇	一九	三二	三一	三二隻	三一	三一	打瀬二七	一七〇
										磯打瀬二〇 磯地曳一 磯魚釣一 磯打瀬二〇 磯地曳一 磯魚釣一	
										磯打瀬二七 磯地曳一 磯魚釣一	
										磯打瀬二七 磯地曳一 磯魚釣一	
										磯打瀬二七 磯地曳一 磯魚釣一	
										磯打瀬二七 磯地曳一 磯魚釣一	
										磯打瀬二七 磯地曳一 磯魚釣一	
										磯打瀬二七 磯地曳一 磯魚釣一	

本籍地町村別表

郡市町村名	船數	各根據地漁業種類別船數	
		種類	船數
西浦村	三隻	麗水打瀬	三
形原村	五	麗水打瀬	四
蘆津村	一	麗水打瀬	一
蒲郡町	四	麗水打瀬	四
三谷町	一	麗水打瀬	一
大塚村	一	麗水打瀬	一
豐川町	一	麗水打瀬	一
幡豆村	一七	麗水打瀬	五
吉田村	九	州岬打瀬	九
一色村	一	州岬打瀬	一
豊濱町	一五	州岬打瀬	四
師崎町	五	長承浦藻打瀬	一
常帶町	一	長承浦藻打瀬	一
西浦町	二	長承浦磯魚釣	一
野間村	一	伊川磯地曳	一

計	八七	八七
海部郡蟹江町	六	州岬打瀬二 州岬藻打瀬四
碧海郡大濱町	三	州岬打瀬一 麗水打瀬一 州岬藻打瀬一

根據地別表

根據地名	總船數	漁業者數	家族數	本籍地郡市別船數	漁業ノ種類	移住通船數
州岬	三七隻	一〇七人	四五人	幡豆郡二 知多郡六 寶飯郡一 海部郡六 碧海郡二	打瀬 三二 藻打瀬 五	通移 漁住 二二 通移 漁住 一五
麗水	四六	一二二	四六	寶飯郡二 六 幡豆郡五 知多郡一 四 碧海郡一	打瀬 四六	通移 漁住 二〇 通移 漁住 二六
長承浦	三	三	六	知多郡三	鯖巾着 藻打瀬一 磯魚釣 一	通移 漁住 一三
伊川	一	一	一	知多郡一	鰺地曳 一	通移 漁住 一
計	八七	二二三	九八	幡豆郡二 七 寶飯郡二 七 知多郡二 四 海部郡六 碧海郡三	打瀬七八 藻打瀬六 鰺地曳一 鯖巾着 一 魚磯釣 一	通移 漁住 四六 通移 漁住 四一

大正五年度漁獲高表

漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一隻出漁日數	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
計	六八	七、三三、一〇〇	一〇六、八八〇	一四	三、五六〇	七、二二〇、一〇〇	一〇六、八一〇
漁業ノ種類	五七隻	六、六六、八〇〇	一一六、九九九	二〇日	三、八九九	六、六六、八〇〇	一一六、九九九
打瀬網漁業	八	三、七三、三〇〇	四六、六六三	二一	一、五五五	三、七三、三〇〇	四六、六六三
藻打瀬網漁業	一	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	七	六、六六七	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
鰺地曳網漁業	一	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
鯖巾着網漁業	一	三、三〇〇、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇	八	七、三三三	三、三〇〇、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇
磯魚釣漁業	一	三、三〇〇、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇	一四	三、五六〇	七、二二〇、一〇〇	一〇六、八一〇

(分 月 四)

漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一隻出漁日數	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
計	五五	四、七六、八〇〇	八六、六五一	一五	二、七五二	四、七六、八〇〇	八六、六五一
漁業ノ種類	四四隻	四、〇五、〇〇〇	九二、〇〇六	一九日	二、九七〇	四、〇五、〇〇〇	九二、〇〇六
打瀬網漁業	八	四、三三、六〇〇	五三、七〇〇	二二	一、六六八	四、三三、六〇〇	五三、七〇〇
藻打瀬網漁業	一	二、七五、〇〇〇	二、七五、〇〇〇	一〇	八、八七一	二、七五、〇〇〇	二、七五、〇〇〇
鰺地曳網漁業	一	二、七五、〇〇〇	二、七五、〇〇〇	一〇	八、八七一	二、七五、〇〇〇	二、七五、〇〇〇
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ		九	八、四四五	本年從業セズ	
磯魚釣漁業	一	二、六、一〇〇	二、六、一〇〇	九	八、四四五	二、六、一〇〇	二、六、一〇〇

(分 月 五)

(分 月 六)

漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
打瀬網漁業	四六隻	三、五八、二〇〇	七、七、三四	一二日	二、五七、九	四、二七、〇〇〇	三、二〇、三九二
藻打瀬網漁業	八	三九、〇〇〇	四、八、七五〇	一七	一、六、五	一、二七、九〇〇	一、四七、一三三
鯤地曳網漁業	一	四三〇、〇〇〇	四三〇、〇〇〇	一三	一、三、三三三	九、五、〇〇〇	九、五、〇〇〇
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ					
磯魚釣漁業	一	當月休業				四八、二〇〇	四八、二〇〇
計	五七	四、三九、二〇〇	七、六、六八	一四	二、五、六二六	四、〇八、一〇〇	二、八七、八六二

(分 月 七)

漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
打瀬網漁業	四六隻	三、九七、七八〇	八、六、四七四	一三日	二、七〇、二八	三、九六、八〇〇	三、九六、八〇〇
藻打瀬網漁業	八	五三、〇〇〇	六、六、三七五	一八	二、四、二	一、七〇、七〇〇	二、三、四八八
鯤地曳網漁業	一	四八〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	一五	一、五、四八四	一、三、八五、〇〇〇	一、三、八五、〇〇〇
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ					
磯魚釣漁業	一	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一〇	三、〇、〇	六、二〇〇	六、二〇〇
計	五七	五、〇八、八〇〇	八、八、〇四九	一四	二、八、四〇二	四、四、九〇〇	三、七、五、九一〇

(分 月 八)

漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
打瀬網漁業	五五隻	七、六六、五〇〇	一三、九、九六	一九日	四、五、四二五	四、五、九三〇	四、七、八六〇
藻打瀬網漁業	八	六三、七〇〇	七、九、〇八八	二一日	二、五、五二	二、三、四〇、六〇〇	二、九、二、五七五
鯤地曳網漁業	一	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	一二	七、〇、九七	一、〇、六五、〇〇〇	一、〇、六五、〇〇〇
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ					
磯魚釣漁業	一	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	一三	八、〇、	一〇、三、一〇〇	一〇、三、一〇〇
計	六六	八、五四、二三三	一三、九、九三	一六	四、一、九三〇	四、〇、一、一〇〇	四、五、四、五二二

(分 月 九)

漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
打瀬網漁業	五八隻	三、四九、九〇〇	五、九、三三九	一一日	一、九、七二九	三、七、二二〇	五、〇、六、七六一
藻打瀬網漁業	八	二八、六〇〇	三、五、三三五	一七	一、二、七六	一、二、三、二〇〇	三、七、九〇〇
鯤地曳網漁業	一	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一〇	四、〇、〇〇〇	一、八、五、〇〇〇	一、八、五、〇〇〇
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ					
磯魚釣漁業	一	當月休業				一〇、三、一〇〇	一〇、三、一〇〇
計	六九	三、八四、二〇〇	五、六、六八四	一三	一、〇、三七七	三、七、九三〇	四、九、二、六六一

(分 月 十)

漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
打瀬網漁業	七六隻	六、五三、九〇〇	八五、八八〇	一一日	二、七〇三、九一九	三、四一、〇四一	三、四一、〇四一
藻打瀬網漁業	八	二五、五〇〇	三、四、四三八	一四	一、二二一	二、八九八、七〇〇	三、六二、三三六
鯉地曳網漁業	一	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一〇	一、九三五	一、八八〇、〇〇〇	一、八八五、〇〇〇
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ					
磯魚釣漁業	一	當月休業					
計	八七	六、八三、二〇〇	七、八七六	一一	二、五四四、〇八六	三、四一、〇四一	三、四一、〇四一

(分 月 一 十)

漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
打瀬網漁業	七八隻	二、六四、〇〇〇	一四九、六六七	一八日	四、九八四、七五三	六〇、一六八	六〇、一六八
藻打瀬網漁業	八	二四、二〇〇	三〇、二五〇	二〇	一、〇〇八	三、一四〇、七〇〇	三、九二、五八七
鯉地曳網漁業	一	一三〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	一四	四、三三三	二、〇一五、〇〇〇	二、〇一五、〇〇〇
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ					
磯魚釣漁業	一	本月休業					
計	八九	三、〇〇四、〇〇〇	三、四、四三八	一七	四、四七八、八五二	一〇三、一〇〇	一〇三、一〇〇

(分 月 二 十)

漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
打瀬網漁業	七八隻	二、四八三、八〇〇	一八九、九二二	二〇日	六、一三六、二四〇	八〇〇、〇八八	八〇〇、〇八八
藻打瀬網漁業	八	二〇八、〇〇〇	二六、〇〇〇	一一	八三九	三、三四八、七〇〇	四、二八五、八
鯉地曳網漁業	一組	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	八日	一、二九〇	二、〇五五、〇〇〇	二、〇五五、〇〇〇
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ					
磯魚釣漁業	一隻	當月中休業					
計	八九	二、五、〇六、八〇〇	一六九、三三七	一六	五、四五九、七九三	一〇三、一〇〇	一〇三、一〇〇

(分 月 一)

漁業ノ種類	船數	本月中漁獲高	本月中平均一隻漁獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日ノ漁獲高	四月以後漁獲高	四月以後平均一隻漁獲高
打瀬網漁業	七八隻	九、五五、三〇〇	一二三、六六六	一〇日	三、九五七、一九七	九三、七四六	九三、七四六
藻打瀬網漁業	六	一四、六〇〇	二、四、三三三	一一	七、五七六	三、四八九、三〇〇	五、六一、五五〇
鯉地曳網漁業	一	當月休業					
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ					
磯魚釣漁業	一	當月休業					
計	八七	九、七〇七、九〇〇	一二、五五五	一一	三、五九七、六三二	一〇三、一〇〇	一〇三、一〇〇

1421
45

大正六年十二月十六日印刷
大正六年十二月二十日發行

發行所 愛知縣水産試験場

印刷者 淺野久男
名古屋市東區東外堀町二丁目三番地

印刷所 博信社
名古屋市東區東外堀町二丁目三番地
電話四〇二九番

(分 月 二)

漁業ノ種類	船數	本月獲高	本月中平均一隻獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日獲高	四月以後獲高	四月以後平均一隻獲高
打瀬網漁業	七八隻	一五、一五〇	一九四、八一	一二日	六、九八七、一七	一、二七、五六	一、二七、五六
藻打瀬網漁業	六	一七、五〇〇	二九、九七	一二	一、〇六九	三、六八、八〇	六二、四六七
鯉地曳網漁業	一	當月休業					
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ					
磯魚釣漁業	一	當月休業					
計	八七	一五、三三五、四〇〇	一七六、七七八	一一	六、三三二、九七	一、〇六八、七〇	一、〇六八、七〇

(分 月 三)

漁業ノ種類	船數	本月獲高	本月中平均一隻獲高	本月中平均出漁日數	本月中平均一日獲高	四月以後獲高	四月以後平均一隻獲高
打瀬網漁業	七八隻	一五、七七一、九〇	二〇二、三四五	一四日	六、五二七、一〇	一、三九、八五	一、三九、八五
藻打瀬網漁業	六	一八、四〇〇	三〇、四〇〇	一六	九八二	三、八五、二〇	六四一、八六七
鯉地曳網漁業	一	當月休業					
鯖巾着網漁業	一	本年從業セズ					
磯魚釣漁業	一	當月休業					
計	八七	一五、九五一、三〇〇	一八三、五〇九	一五	五、九二〇、二八	一、八六六、四〇〇	一、八六六、四〇〇

備考 前表ハ凡テ厘以下四捨五入トス

142A
45

終